

高槻市文化財スタッフの会古文書グループ 史料集第一号

大阪府立中之島図書館所蔵

# 撰津国高槻村古記録一

— 御巡見様を迎える先人達 —

宝永七年（一七一〇）  
享保元年（一七一六）  
延享元年（一七四四）  
延享三年（一七四六）

## 序 文

（刊行にそえて）

高槻は、京都と西国をむすぶ西国街道と淀川が東西を貫き、大名や旅人、物資が行き交う交通の要衝でした。慶安二年（一六四九）、畿内・西国支配に大きな役割を果たしていた永井直清が三万六千石の大名として入封し、以降は高槻藩永井家が十三代続きました。

高槻市立しろあと歴史館を拠点に活動する特定非営利活動法人高槻市文化財スタッフの会のメンバーは、グループ活動で古文書の解読作業をすすめ、これまでもその成果を当館の特別展・企画展での資料解読や、市民に親しみやすい解説パネルの作成などに活かしていたいただきました。本市の歴史を掘り下げるボランティアとして、ご活躍中です。

このたび、ボランティア活動の一環として、市外へ流出した史料を掘り起こし、新たな地域の歴史を明らかにしようと、本史料集の発刊に取り組みました。本史料は江戸幕府の巡見使の対応について、幕府と高槻藩、藩と村々の実態に迫るものです。また、高槻のみならず、当時の周辺地域とのつながりを知る貴重な史料となっています。

この史料集が、高槻藩研究、さらには畿内の地域史研究の一助になることを期待いたします。

平成二十四年三月

## 古記録の概要

本書は、大阪府立中之島図書館所蔵の『摂津国高槻村古記録一』の釈文であり、『同古記録二』・『同古記録三』とあわせて一つの史料群となっている。これらは昭和十三年十月八日に図書館の所蔵（近世文書No.一三〇）となり、保存・公開されている。

『同古記録一』のはじめに図書館の製本方針として、

- 一、各冊ノ表ニ色紙ヲ添へ
- 一、外題ヲ墨書

- 一、三冊トシテ簡単ナル製本仕立ニ願ヒタシ

とあるので、図書館の受入時にはすでに一定の冊子状のもの（タテ25cm×ヨコ17cm）となっていたものを、外題を墨書した後、年代順に綴じ直したことがわかる。その内容は、江戸時代の將軍交代時などに全国に派遣された「幕府巡見使」に関する記録が主であり、この巡見使に関しては、宝永七年（一七一〇）第六代將軍徳川家宣の時から、天保九年（一八三八）第十二代將軍徳川家慶の時までの実に七回分が記されている貴重な史料である。

『摂津国高槻村古記録一』の概要は、以下の通りである。

宝永七年（一七一〇）時に巡見使一行を迎えるにあたって、巡見の対象となる村々には人足三四〇人・馬五〇頭もの準備が必要であったこと。享保元年（一七一六）第八代將軍徳川吉宗の時の内容から、高槻城下では御三方様御本陣が町家に申付られたこと。延享元年（一七四四）の巡見は、將軍家の代替りに伴うものではないので、何らかの特別の目的があったのではないかと推察できることなどである。本記録では、冒頭に河筋改良願の口上控が記されている点より、この巡見の目的が逆説的に窺わせるものとなっている。

また本書は、延享二年（一七四五）第九代將軍徳川家重への將軍交代時に遣わされた翌延享三年（一七四六）四月の巡見に関する記録が大部分を占める。同年二月、藩役人より高槻藩村々の庄屋等に対

し、御朱印人馬方・聞き合わせ御用掛かり・書き役・各宰領などの役職を詳細に申し付けられた。同三月には、その人馬方庄屋達は山田市場村（現大阪府吹田市）までの富田村・茨木村等十数ヶ村の他領村々の庄屋達と寄合をし、諸種の要望を高槻藩役人の指示のもとに調整をしている。これは高槻より東側の村々でも同様である。本書の添付図面にもあるが、これらの村々とは、現在の行政区では、東から大阪府島本町・高槻市・茨木市・摂津市・吹田市、更に淀川の対岸の枚方市に該当する。事前の聞き合わせに至っては奈良県にまで及んでいた。

大変なことに、この年四月は延々と大雨が続いた。大和川越えの刻々の聞き合わせや淀川越えの枚方側との負担の打ち合わせ、淀川の高浜舟渡し場（現島本町）で揚がれない場合の想定や、檜尾川・天道川（現女瀬川）の橋が使用できない時の歩行越えなど、船・馬・人足の段取りなどの村々の連携状況が記されている。更に、高槻城下の本陣での火事の場合の避難手合、庄屋達の挨拶、陳情対応に夜食の準備、翌日早朝の三ヶ寺での出発対応等も詳細に記されている。

宿・人足・馬の賃金は、御上の定額（低額力）が払われながら、なぜか巡見使からは御朱印以上は老人老匹もさし出していないと庄屋達に書付を出すことが命じられた。御朱印以上の対応が必要であったのである。高槻藩も財政が苦しく多くの負担はできないので、すべて村々に掛かってくるのである。村人達にとって大変なことであったと思われる。この大きな人的・金銭的負担を誰がどの割合で行うかがもつとも重要なことであったことは間違いないであろう。

延享時には、お休み所の山田市場村から高浜渡し場迄の通り道筋の対応については、高槻村をはじめ藩内の主要な庄屋達が、高槻藩の指示を得ながら、枚方側も含め他領の村々とも準備及び負担の調整をするという一定の合意レベルにあったものと思われる。

なお、この延享三年（一七四五）の巡見使の道筋の村々はもう耐えられないと、藩内の道筋でない村々も負担してほしいと訴えていることが『高槻市史』に紹介する史料にもみられ、いかに負担の調整が困難なものであったかを物語っているのではないかと推測できる。

以下は、図書館による（外題）並びに古記録の（紙数）である。

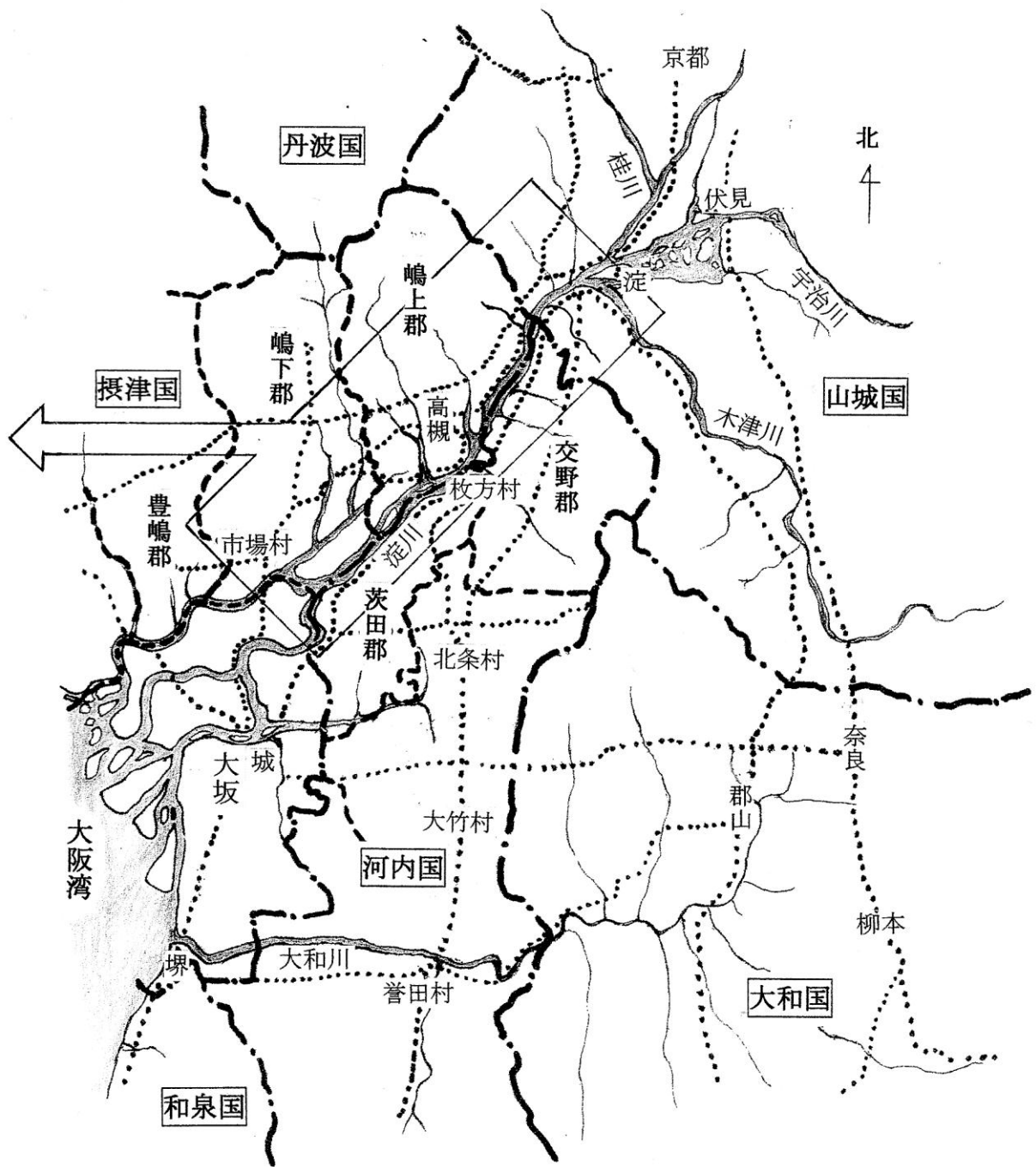
|               |      |           |
|---------------|------|-----------|
| 御巡見様人馬駕籠諸色入用控 | 宝永七年 | 墨付6丁白紙1丁  |
| 御巡見様御通筋并道法之覚  | 享保元年 | 墨付7丁      |
| 神尾若狭守様御順口上控   | 延享元年 | 墨付6丁      |
| 御巡見様諸事覚書      | 延享三年 | 墨付65丁白紙2丁 |
| 御巡見様人馬諸色入用控   | 延享三年 | 墨付5丁      |

## 積文凡例


- 一、積文にあたり、史料の体裁はできるかぎり原本にしたがつた。
- 一、(外題)ごとに、原本の丁数を(001)表・裏と示した。
- 一、本文の字体は原則として常用漢字を用い、俗字は正字に改めた。但し、固有名詞は原本にしたがつた。
- 一、文書を読みやすくするため読点「、」及び並列点「・」を適宜いれ、闕字は一字あけとした。
- 一、変体がなほ平かなになおし、片かなはそのままだにした。
- 一、合字である「ㄉ」(より)はそのままだ使用した。
- 一、本文の見せ消しは、(々)を該当文字の左側に示した。
- 一、助詞の「与」・「茂」は「と」・「も」とし、「者」・「而」・「江」・「ニ」・「へ」・「エ」はそれぞれ小文字で表し、右に寄せた。
- 一、原本の「斗」は、(はかる)と読む場合は「計」とした。
- 一、綴代・虫損・汚れ等で、判読できない箇所は字数分を□とし、字数がわからない場合は「 」とした。文字によっては原字をスキヤンしたものもある。その他誤字や脱字と思われる箇所には適宜(ママ)(カ)(脱カ)とした。
- 一、本文上欄には、主な事柄についての注釈・引用を記載した。


# 村々の位置図

(本書に記された村名を主とする)



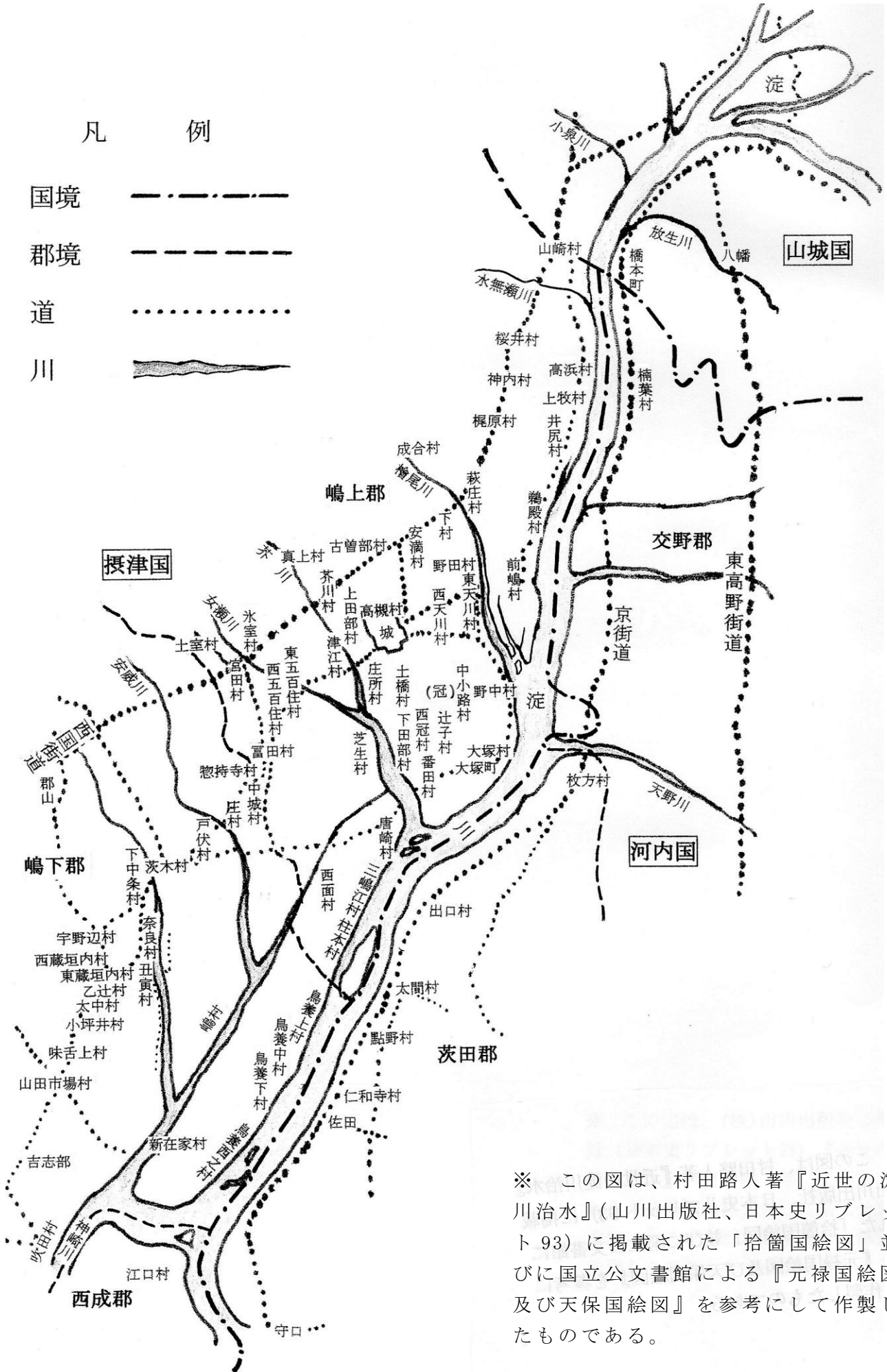
凡 例

国境 

郡境 

道 

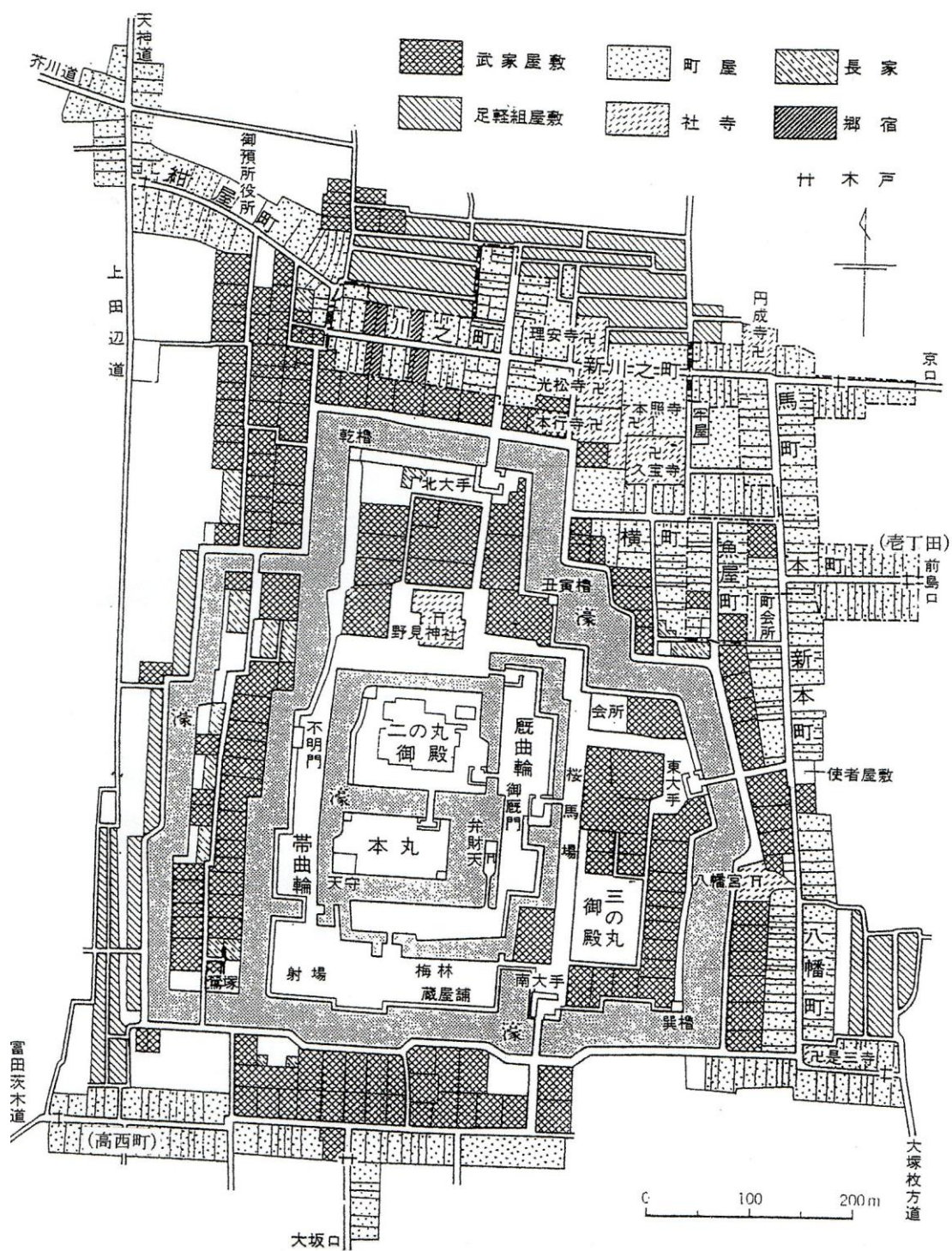
川 



※ この図は、村田路人著『近世の淀川治水』（山川出版社、日本史リブレット 93）に掲載された「拾箇国絵図」並びに国立公文書館による『元禄国絵図及び天保国絵図』を参考にして作製したものである。



# 高槻城下の図



※この図は『高槻市史』第二巻本編Ⅱの図13「幕末期の高槻城下」に一部加筆したものである。  
 加筆した部分には( )を用いた。

(外題) は大阪府立中之島図書館で作成された表紙である。以下の外題も同様である。

宝永七年(一七一〇)の巡見。

使番 伏見主水爲信

小姓組 山本八右衛門

門邑旨

書院番 大久保平左

右衛門忠恭

三月(閏)八月

(『徳川実紀』より)

(外題)

御巡見様人馬駕籠諸色入用控 宝永七年

(001)表

宝永七寅年

御巡見様人馬駕籠諸色入用

馬借方

会所控

(001)裏

(白紙)

(002)  
表

御触之写

一伏見主水様

御朱印人足八人

同伝馬拾五疋

同駕籠之者四人

同狭箱(挟力)式荷式人

同具足櫃 壺人

同茶弁当 壺人

(002)  
裏

同長持式棹四人

同笠籠壺荷壺人

同弁当持 壺人

人足ノ式拾式人

一山本八右衛門様

御朱印人足八人

同伝馬 拾疋

賃人足 弍人

駕籠之者 四人

長持弍さほ四人

具足櫃 壺人

はさみ箱 弍人

笠かこ壺荷壺人

人足 弍拾弍人

(003)裏  
一大久保平左衛門様

御朱印人足八人

同伝馬 拾疋

駕籠人足 四人

(003)表

長持式さほ四人

人足ハ拾六人

(004)  
表  
一馬五拾疋 但内凡式拾五疋ハ御領分ニ而用立可申候

内

三拾六疋 役付

拾四疋 用意替馬

ハ

一人足三百四拾人

内

拾八人 御乗物駕籠六尺

ハ

(004)  
裏  
一駕籠五拾挺 但駕籠ふとん  
雨とひとも

内

四拾五挺 役付

五挺 用意

ノ

一木綿かんはん百

内

十八 上御乗物人足拾八人

殿様方御借シ被下候

(005)  
表

一きやはん拾八足 右同断

右同断

一三尺手ぬくひ拾八筋 右同断

但染込右同断

一带拾八筋 右同断

但染込右同断

一馬紙羽 廿

延享三年（一七四六）  
巡見時に宝永七年（一  
七一〇）巡見時の記録  
が必要になったと思  
われる。

高槻藩領組編成（六  
組）

高槻組

上郷組

冠組

鳥飼組

五箇庄組

丹波組

（『高槻市史』第二卷  
本編Ⅱより）

(005)  
裏  
一琉球 百枚

一遠方馬宿之事

(006)  
表  
（白紙）

(006)  
裏  
（白紙）

(007)  
表  
延享三寅二月日

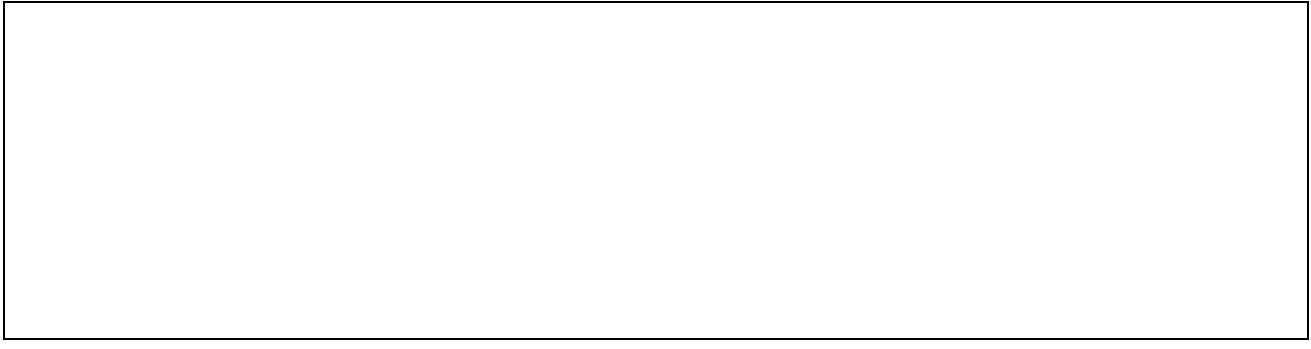
郡御方  
駒野軍兵衛殿

飯田善兵衛殿

冠組  
御代官  
山中弥三郎殿

乾 官兵衛殿

上郷組  
尾崎源蔵殿



(007)  
裏

高槻組

御代官

伊藤朴助殿

高屋新蔵殿

小沢甚蔵殿

右之本紙御会所

差上申候

芥川村庄屋

嘉兵衛

唐崎村庄屋

幸助

土橋村庄屋

理右衛門

高槻村庄屋

安左衛門



宝暦十年（一七六〇）  
巡見時（高槻村古記録  
二）に享保元年（一七  
十六）巡見時の記録が  
必要になったと思われ  
る。

（外題）

御巡見様御通筋并道法之覚 享保元年

(001)  
表 享保元年

御巡見之御方様御通り筋并道法之覚

宝暦十庚辰年九月於江戸御巡見

遠藤源五郎様方此度<sub>者</sub>享保元丙申年

享保元年（一七一六）  
の巡見

使番 遠藤新六郎常就

小姓組 曾我七兵衛助

賢

書院番 山本縫殿正延

元年七月～二年正月

〔徳川実紀〕より

(001)  
裏  
(白紙)

之御例書附差上候様ニと被仰出候、無程  
江戸表御出立ニ付、京都御旅宿<sub>江</sub>  
鷹杉重郎兵衛を以差出候書附候控

(002)  
表

享保元丙申年十一月廿七日

遠藤新六様・曾我七兵衛様・

山本縫殿様御巡見之節

飛驒守領分御通り筋之覚

一 摂州嶋下郡吉志部村ニ領分有之

御通行被成候節、地方役人差出ス

(002)  
裏

一同国嶋上郡西五百住村迄、人馬方  
肝煎之者差出候

一右同所迄、為御挨拶使者差出候

一右同所領分境迄、為御迎郡奉行

差出并御案内之者差出、尤夫方

東五百住村・津江村・庄所村御通行、

(003)  
表

申之下刻高槻城下<sub>江</sub>被成御着候

一城下町口迄、町奉行并人馬方役人

差出候

一城下御途中迄、目附役差出候

一御旅宿<sub>者</sub>城下之町家<sub>三</sub>御三方様

(003)  
裏

御本陣申付被成御一宿候

一御本陣<sub>江</sub>御着後、年寄共罷出

御機嫌相伺候

一 郡奉行・町奉行・目附役御本陣<sub>江</sub>

罷出御機嫌相伺、御本陣近所<sub>ニ</sub>

相詰罷在候

(004)  
表  
一 翌廿八日早朝、年寄共御本陣へ罷出

御機嫌相伺候

一 同日辰刻、御三方様共被成御出立候

一 城下御途中迄目附役差出候、

同町口迄町奉行差出候

(004)  
裏  
一 同国東天川村・前嶋村・鵜殿村

被成御通行候、鵜殿領分迄

御案内之者差出、郡奉行右

同所迄差出候

丹州之領分―高槻藩領は、現在の高槻市の北西部、亀岡市の南部にもあった。

一 丹州之領分<sup>者</sup>御通行無御坐候

以上

(005) 表  
御通筋道法之覚

一 摂州嶋下郡吉志部村  
稲葉丹後守様領分  
飛驒守領分入組

此間凡百町程他領<sup>ニ而</sup>御座候

一 同国嶋上郡富田村御料飛驒守領分入組

此間三丁

(005) 裏  
一 同国西五百住村 飛驒守領分

此間弐丁

一 同国東五百住村 右同領

此間六町余

一 同国津江村 右同領

此間八丁

(006)表

一同国庄所村

右同

此間五町同国高槻城下町口迄

ノ 廿四丁余

一御宿

高槻城下町家

高槻城下町外方

此間拾五町半

(006)裏

一同国東天川村 飛驒守領分

此間七町半余

一同国前嶋村

此間五町余

一同国鶉殿村

烏丸侍從御家領  
飛驒守領分入組

此間十一町余

以上

(007)  
表

一同国上牧村

此間拾七丁余

一同国高浜村渡場迄

五十六丁余

(007)  
裏

(白紙)

延享元年（一七四四）  
の巡見。  
勘定奉行 神尾若狭  
守春央  
七月～十二月  
（『徳川実紀』より）

（外題）

神尾若狭守様御順口上控

延享元年

(001)  
表  
延享元□<sup>(甲カ)</sup>子年

神尾若狭守様御順口上 控

高槻村庄屋

安左衛門

(001)  
裏  
（白紙）



(002)  
表

口上 覚

御巡見様河筋之儀御尋之時御返答

一私共村々之儀、廿年以前迄ハ水損無御座候処

近年川床高く相成候哉、水差込年々水

損仕候故御願申上置候、御慈悲之上直川之儀

被仰付被下候ハ、難有奉存候、委細之儀者川表庄屋

共言上可仕奉存候

(002)  
裏

本高六百九拾六石八升

東五百住村

一九百五拾六石六斗六升八合 拾ヶ年御引高

石ニ壹斗二升七合三勺ニ当ル

斗代ならし

凡壹石三斗九升八合□

御検地

文禄年中

「牛頭」について  
原文ではすべて「午」  
であるが、以下すべて  
「牛」とした。

氏神

牛頭天皇(ママ)

同

若宮八幡宮

石

又御取七ツ九歩

家数七拾五軒人数三百五十壺人 午七疋

本高六百拾四石七斗六升弍合

一千三百四拾九石五斗九升 十ヶ年御引高

石<sub>ニ</sub>弍斗弍升六勺<sub>ニ</sub>当ル

西五百住村

又御取八ツ

上々壺石六斗

斗代壺石五升七合六勺

上 壺石五斗

氏神 春日大明神

中 壺石三斗

天満宮

下 壺石三斗

家数五拾三軒人数弍百三十弍人 午二疋

上畑壺石弍斗

中畑壺石

屋敷壺石壺斗

(003)  
表

(003)  
裏

御検地

寛永年中

本高六百七拾石九斗七升五合

一式千九百七拾六石七斗三合 十ヶ年御引高

石<sub>ニ</sub>四斗四升二合六勺三当ル

芝生村

氏神 八幡宮

御検地 文禄年中

斗代平均 壹石貳斗六升六合

御取米 六ツ壹歩

家数九十壹軒四百四十五人 午廿五疋

(004)  
表

本高六百拾三石 御城地御侍屋敷引残高

一千貳百七石四升八合三勺 十ヶ年御引高

石<sub>ニ</sub>壹斗九升七合当ル

高槻村

又御取米七ツ四歩

斗代平均壺石五斗五升五合

上々壺石七斗  
上 壺石六斗  
畑 壺石貳斗

御檢地 文祿年中

氏神 牛頭天王

同 八幡宮

〔貼紙〕

本六百拾三石 御城地御侍屋敷引残高

一千貳百七石四升八合三勺 十ヶ年御引高

石<sub>ニ</sub>壺斗九升七合当ル

高槻村

又御取米七ツ四歩

斗代平均壺石五斗五升五合

上々壺石七斗  
上 壺石六斗  
畑 壺石貳斗

御検地 文禄年中

氏神 牛頭天王

同 八幡宮

(004)  
裏

本高四百九十石七斗三升

庄所村

一千四百四拾六石七斗三升八合 十ヶ年御引高

石<sup>ニ</sup>式斗九升四合八勺当ル

斗代平均壺石五斗七升三合

上 壺石七斗

中 壺石四斗

下 壺石式斗

御取米 七ツ

御検地 文禄年中

氏神 牛頭天王

家数三拾軒人数百四拾式人 午八疋

(005)  
表

本高五百六拾九石四斗七升壹合

一八百八拾七石五斗九升貳合 十ヶ年御引高

石<sub>ニ</sub>壹斗五升五合九勺<sub>ニ</sub>当ル

津江村

斗代平均壹石三斗

御取米 七ツ四歩

御検地 文禄三年

氏神 牛頭天皇<sub>(ママ)</sub>

桑原治右衛門殿御改

同 稻荷大明神

家数八拾貳軒人数三百七拾八人 午廿疋

(005)  
裏

一京都<sup>へ</sup> 六里 一伏見<sup>へ</sup> 五里

一字治<sup>へ</sup> 六里 一淀<sup>へ</sup> 四里

一山崎<sup>へ</sup> 三里 一金龍寺<sup>へ</sup> 壹里半

一本山へ 三里 一神峯山寺へ 貳里

伊勢寺いせ姫の塚あり 一安岡寺へ 壹里半

能因塚有四丁

(006)表  
一礼照寺へ 卅六丁 一芥川へ 三十丁

(ママ)  
一惣持寺へ 卅丁 一勝尾寺へ 三里余

(ママ)  
一箕尾へ 三里半 一池田へ 五里

一伊丹へ 六里 一中山へ 六里

一多田院へ 六里 一八幡へ 三里

一有馬へ 九里 一大坂へ 五里

一江口へ 三里 一尼ヶ崎へ 七里

(006)裏  
一神崎へ 五里余 一いこまへ 五里

一さかいへ 八里 一ならへ 九里

一枚方へ 三十丁

延享三年（一七四六）  
の巡見。

使番 稲尾左門正甫

小姓組 神保宮内武周

書院番 岩瀬吉左衛門

氏英

一月～七月

（『徳川実紀』より）

（外題）

御巡見様諸事覚書

延享三年

(001)表

延享三丙寅年

御巡見

稲生左門様

神保宮内様

岩瀬吉左衛門様

諸事覚書

四月八日

近藤氏

(001)裏

（白紙）



(002)  
表

一延享三寅年諸国御巡見様御廻りニ付、二月

高槻組御代官高屋新蔵様被 仰付候ハ、此度

御巡見様御通りニ付、先年御廻り被遊候節之

御朱印人馬其外御用之筋共御尋ニ付、覚書之

趣委細安左衛門申上候

一同二月ニ左之四人之者共御巡見様御出之節

御朱印人馬方役ニ被 仰付候

高槻村庄屋安左衛門

土橋村庄屋理右衛門

芥川村庄屋嘉兵衛

唐崎村庄屋幸助

(002)  
裏

右四人御用勤方、御本陣江 参候節ハ羽織袴ニ而

脇指、高浜村迄御迎<sub>ニ</sub>罷出市場村迄御送り<sub>ニ</sub>

御供申上候、此節ハ羽織<sub>ニ</sub>立付脇指供壺人宛

召連人馬押御本陣<sub>江</sub>御着後、高槻人馬方之庄屋共

<sub>ニ而</sub>御座候、今日ハ御機嫌宜其上御供仕恐悦奉存候

と申上候、御用人中御出遠方念ノ入大儀<sub>ニ</sub>候、勝手

次第罷帰可被申候、御役人中へも御念入候段御挨拶

申候と御申可給と被 仰、御暇申上罷帰候<sub>而</sub>

(003)  
表

高槻<sub>江</sub>何も罷越、御用掛御代官中伊藤朴助様・

尾崎源蔵様并面々御支配<sub>江</sub>罷越、相勤候段具<sub>ニ</sub>申上候

一 右御用掛り御代官

伊藤朴助様

高槻組御支配

尾崎源蔵様

上郷組御支配

此節郡御奉行

駒野軍兵衛様

飯田善兵衛様

(003) 裏一 聞合御用掛り左之庄屋五人<sup>江</sup>被 仰付候

鳥養西之村庄屋 源右衛門

柱本村庄屋 太郎左衛門

上田部村庄屋 又八

安満村庄屋 甚左衛門

大塚町庄屋 又右衛門

右五人勤方、聞合御用掛り本陣詰と被 仰付候得共

詰は無之脇宿<sup>ニ</sup>罷在、御用之節ハ罷出候様<sup>ニ</sup>被 仰付候、

(004) 表 西天川庄屋馬町喜右衛門方<sup>ニ</sup>相詰ル、本陣御用之節ハ

羽織袴

右役、先年ハ大庄屋之名目<sup>ニ而</sup>御領分内前嶋村

高槻迄高槻方富田村迄御案内申候得共、此度ハ  
御案内者其村限り相勤候

一惣人足肝煎年寄八人左之通被 仰付候

下田部村年寄 三右衛門

唐崎村組頭 利兵衛

東五百住村年寄 藤九郎

芥川村年寄 七郎兵衛

上田部村年寄 源右衛門

安満村年寄 五左衛門

安左衛門方内番 高槻村年寄 孫右衛門

書役 中小路村年寄 孫八

(005)  
表

右六人勤方、高浜村迄人馬召連御迎ニ参、高槻方  
市場村迄御供申、羽織・もゝ引・脇指両人宛

(004)  
裏

組合御一頭様<sub>江</sub>付

一 惣馬廻り式人

芥川村馬指 新右衛門  
唐崎村馬指 半四郎

右式人羽織も、引無腰

外<sub>ニ</sub>荷附人足 拾人

是ハ乗掛駄荷等勝手能存候者  
付不申候<sub>而</sub>ハ悪敷候

一村々方人足肝煎五人組頭耆人宛

(005)  
裏

右羽織も、引<sub>ニ</sub>無腰

一 二月廿一日枚方宿<sub>江</sub>安左衛門・嘉兵衛罷越、本陣池尻

善兵衛殿并庄屋三郎兵衛馬役人<sub>江</sub>出會諸事手合

先年帳面を以て及対談候、大塚渡シ御先荷<sub>ニ</sub>も

御通り候<sub>而</sub>ハ高槻手合通候間、人馬共不殘高浜村<sub>江</sub>

御通り候様<sub>ニ</sub>工面いたし置候

御朱印馬之儀枚方宿方高槻迄直通り之約束、

同人足之儀ハ高浜村<sub>ニ</sub>而継候様<sub>ニ</sub>申合、摂州路之人足

(006)  
表

渡越候<sup>而</sup>ハ不勝手<sup>ニ</sup>候間、枚方宿之人足舟之上ハ  
減シ、高浜村嶋迄付可申候間、舟迄摂州路人足参  
筈<sup>ニ</sup>候、枚方役人何事も高槻表御勝手宜敷様と  
相働可申との事<sup>ニ</sup>候

一 高浜村・上牧村・井尻村・萩庄村<sup>江</sup>廻状遣シ、此度

御巡見様御朱印人馬継合之儀、御相談可申候と

申遣候処、安左衛門方<sup>へ</sup>右村々役人中被参候<sup>而</sup>

被申候ハ、先年も高槻<sup>方</sup>被成被下候得ハ、此度も

先年之通<sup>ニ</sup>被成被下候様<sup>ニ</sup>相頼被申候得共、先

年之儀ハ様子も可有之哉、此度ハ御念入候故

此方御領分切<sup>ニ</sup>相勤可申候と存候、御他領之儀

殊<sup>ニ</sup>御泊り前之村々高槻<sup>江</sup>持付申筈之儀と

存候、市場村迄ハ高槻<sup>方</sup>持付折と存候得<sup>者</sup>

(006)  
裏

申合候、拙者共了簡ニハ難及候、殊ニ高槻領も

道筋悪敷道作り掃除等、人足三千之余も御領分へ

掛り候得ハ氣之毒ニ奉存候と申ニ付、左候ハ、先格之通

御願可申上候間、右之様ニハ宜鋪御取合被下候様ニ

被申、御用掛り御代官中様へ牧五領組より

御願被申御窺之上、御領分並ニ先年之通

世話いたし、高浜村迄人足召連出迎候様ニ被 仰付候

(007)  
表

一 高浜村方御願被申上、先年之通渡船式艘

御借被下候様ニ御願被申上、三嶋江村・鳥養下村

両村之渡船式艘人足共御借被成候

一 高浜村ニも渡船拾壹艘用意いたし候外ニ

楠葉村御代官八角倉与一様故御手代中

楠葉村江御出候而淀船五艘角倉様方御用意

右淀船御断申、御召之船ニ遣

一三月廿三日、西之方山田市場村迄道順村々

相招手合之儀及相談候処、何事先年通り

御勤被下候様ニ頼被申候、右之御名代も御座候間

廿六日又々御寄会被成手合工面共可仕候間

富田村庄屋平右衛門 下中条村六兵衛 庄村五右衛門

中城村 新八 奈良村 喜六 太中村断不参  
新六

戸伏村 茂右衛門 宇野辺村藤兵衛 茨木村藤左衛門

東蔵垣内村 甚兵衛 丑寅村 市兵衛 善兵衛

西蔵垣内村七右衛門 乙辻村 忠兵衛 又左衛門

御領分四ヶ村

(008)表 一三月廿六日、西方御他領寄合之面々、富田村庄屋

平右衛門・茨木村庄屋新右衛門・奈良村庄屋次郎兵衛

(007)裏



嶋上郡小堀十左衛門様御代官所惣代、嶋村庄屋幸助

青木次郎九郎様御代官所惣代、惣持寺村庄屋甚右衛門

織田幸次郎様御預り所惣代、新在家村庄屋徳兵衛

右之衆中参会之上被申候<sup>者</sup>、人足之儀宝永七

寅年御巡見様之節、西方村々御他領分<sup>方</sup>

人足九拾人駕籠式拾挺差出、入用銀ハ村々

高割<sup>ニ</sup>成候、此度も先年通いたし呉候様<sup>ニ</sup>

(008)

裏

被申候<sup>ニ</sup>付、此方<sup>方</sup>申候<sup>者</sup>先年ハ如何いたし事<sup>ニ</sup>而左様<sup>ニ</sup>

在之候哉其段ハ不存候、御順見様之儀ハ御道筋

方人馬指出相勤候事<sup>ニ</sup>候得ハ左様<sup>ニ</sup>ハ難成候、先頃方

段々大和・紀伊迄聞合在之候処、何方<sup>ニ</sup>而も人足

四百人程集メ申由、此方<sup>ニ</sup>も東方高浜村<sup>江</sup>之出迎人足

三百八拾七人<sup>ニ</sup>相極候、市場村へ送り人足其積り<sup>ニ</sup>候

(009)  
表

四百人近キ人足、九拾人御他領十四ヶ村方御出シ  
高槻領五ヶ村方相残三百十人指出シ候而者、  
村割高割何ニもあたらす不釣合成事ニ  
候、殊ニ爰元方ハ兩日人足遣シ申候得ハ  
拙者共了簡難相濟候旨段々申談候処、富田村平右衛門  
被申候ハ、享保元申年西方方御廻り被成候節人馬万端  
を大坂方請合、山田市場御休ニ而高槻御泊り迄直  
通り相勤、村高ニ不構村割ニ相成候間、此度も村割ニ  
致呉候様ニ被申候得共、爰元ニ而相勤候節  
村割ニ致候事も無之、西方ニ而も小高之御村方ハ  
難儀故、兎角此儀も相談調不申何分御願  
申上呉候様ニ被申候ニ付、御用掛り御代官中様へ申上候処  
然ハ富田村方申候通村割ニいたし候様ニ被 仰付候ニ付、

(009)  
裏

其通り申談候処相談之上人足百五拾人指出、入用銀ハ  
高割ニいたし呉候様ニ西方之庄屋中・惣代中御申ニ付  
右之通ニ相談相極メ相濟候、然ル上ハたとひ人足

少シ減シ在之候共無構、百五拾人指出可申之旨一同御申

一和州聞合、上田部又八・安満甚左衛門三月三日被遣候、

柳本・鷹取・郡山・奈良辺之様子聞合候所、未御上

着遅候様ニ相聞へ睨と様子相知不申候、拵申躰ハ聞合

候而二月八日罷帰候、何も御城下先年之格合

一三月六日、大塚町又右衛門・鳥養西之村源右衛門又々奈良

(010)  
表

表為聞合被遣候、是ハ先達而御目附様方々目附

川端丈太夫殿被遣候節、奈良惣年寄徳田勘兵衛と

申仁へ様子相知候ハ、飛札ニ而被申越候様ニ頼被置候処

御目附中様へ伊勢路御通被成紀州熊野路へ御入

被成候旨申来候<sub>ニ</sub>付、右之徳田勘兵衛<sup>へ</sup>参候<sub>而</sub>猶先々<sup>へ</sup>  
罷越、得度慥成儀承合飛脚<sub>ニ而</sub>様子申上候様<sub>ニ</sub>

被仰付被遣候、三月十八日和州五條村御泊り之


様子聞合、三月廿一日又右衛門・源右衛門罷歸り候

一 源右衛門・又右衛門五條村之様子聞合歸候得共、紀州<sup>へ</sup>

御移被成候日之御泊り<sub>ニ</sub>候得<sup>へ</sup>御様子替り候哉

如何之儀聞合、其上先達<sub>而</sub>上田部村庄屋又八・

安満村庄屋甚左衛門被参候節、若御泊り<sup>へ</sup>杯之日限<sub>ニ</sub>参り

合候<sup>へ</sup>、御入御出立之様子直<sub>ニ</sub>  目留之事共写可

進と柳本・高鳥之大庄屋被申候<sub>ニ</sub>付、三月廿三日

又八・甚左衛門被遣御泊り之様子直<sub>ニ</sub>高鳥<sub>ニ而</sub>得度拝見

御人数御道具立等委細<sub>ニ</sub>聞合罷歸候

一 三月廿五日、御用掛り御代官中様安左衛門宅<sub>江</sub>被成御出

(010)  
裏

高浜村出迎人足割出来、先聞合之積りを以

(011)  
表

三百八拾七人被 仰付候処、又八・甚左衛門被帰候<sub>而</sub>、御朱印人馬

之外老<sub>人</sub>老<sub>足</sub>も不被成御取用意迄<sub>ニ</sub>候由<sub>ニ</sub>付、三百五拾人<sub>ニ</sub>

御減被成候

一 四月朔日、御用掛り御代官中様安左衛門宅<sub>江</sub>被成御出候<sub>而</sub>

山田市場<sub>江</sub>之送り人足割出来、他領<sub>方</sub>百五拾人出候<sub>ニ</sub>付

御領<sub>方</sub>百六拾一人都合<sub>(ママ)</sub>三百老<sub>人</sub>、外<sub>ニ</sub>廿四人御六尺

有之候、高浜村へ出迎之人数をハ御かこ六尺拾八人ハ五領

組出人足之内<sub>ニ</sub>而翌日ハ直<sub>ニ</sub>雇候<sub>而</sub>人足之外<sub>ニ</sub>候之故

出人足減申候

一 四月三日未之中刻、御先触河州枚方<sub>方</sub>御送り状付

(011)  
裏

安左衛門宛所<sub>ニ</sub>参り候故、早速郡御奉行中様・御用掛り

御代官様写差上候所、御目附中様<sub>へ</sub>も差上候様<sub>ニ</sub>

郡方々御差函ゆへ、御用番池田孫太夫様へ安左衛門  
差上申候、町方々も紙屋八郎治・本町年寄九左衛門・酒屋仁右衛門・  
わら屋五兵衛参り写被帰候、山田市場<sup>江</sup>安左衛門送り状添  
遣候処、向之方受取状参候候、尤御触状<sup>ニ</sup>も拝見書  
いたし安左衛門印形いたし遣候

御朱印 人足八人馬拾三疋、從江戸山城・大和・河内・和泉・摂津・

紀伊・丹波・但馬・播磨・丹後迄上下可被出之、是ハ  
右之国々為巡見稻生左門被遣付<sup>而</sup>被下之者也

(012)  
表

延享三年二月八日

右宿中

御朱印 人足八人馬拾三疋、從江戸山城・大和・河内・和泉・摂津・

紀伊・丹波・但馬・播磨・丹後迄上下可被出之、是<sup>者</sup>

右之国々為巡見神保宮内被遣付<sup>而</sup>被下之者也

延享三年二月八日

右宿中

御朱印

人足八人馬拾三疋、從江戸山城・大和・河内・和泉・摂津・

紀伊・丹波・但馬・播磨・丹後迄上下可被遣之、是者

右之国々為巡見岩瀬吉左衛門被遣付而被下之者也

延享三年二月八日

右宿中

(012)  
裏

覚

一 御朱印人足八人

一 御朱印伝馬拾三疋 内四疋 人足<sub>二</sub>引替可被差出候

ノ 人足拾六人 馬九疋

右者稻生左門人馬之數

一 御朱印人足八人

一 御朱印伝馬拾三疋 内五疋 人足<sub>二</sub>引替可差出候

(被脱力)

ノ 人足拾八人 馬八疋

右者神保宮内人馬之數

(013)表 一御朱印人足八人

一御朱印伝馬十五疋 内六疋 人足<sub>ニ</sub>引替可被差出候

人足弍拾人 馬九疋

右<sub>者</sub>岩瀬吉左衛門人馬之數

右<sub>者</sub>此度為巡見稻生左門・神保宮内・岩瀬吉左衛門被相廻候<sub>ニ</sub>

付、明三日堺着翌四日彼表令発足候、右之人馬無滞

可被差出候、御朱印之写相渡シ候、村々為心得泊休

書付遣候、相違無之様<sub>ニ</sub>可被相達候、休泊りも尤其

節違之儀も可有之候、此書付於大坂泊可被相返候、已上

(013)裏

四月二日

岩瀬吉左衛門内

野本三太夫  
高橋四郎右衛門

神保宮内内

加藤治右衛門  
中原権左衛門

稻生左門内

田口小野右衛門  
上原伊兵衛

右村々名主中



四月三日 和泉堺泊り

河内国誉田泊り 大竹村休

北条村 泊り 枚方 休

摂州国高槻泊り 市場 休

大坂 泊り

右之通り被罷通候、従是先々追々可申達候、已上

四月二日 但シ四日誉田村御着雨天ニ付五日・六日御逗留七日

北条御泊り八日高槻御泊り

覚

稻生左門様

御巡見 神保宮内様

岩瀬吉左衛門様

御朱印之写三通并人馬触状壱通御泊休附壱通

(014)  
表

(014)  
裏

一拼<sup>ニ</sup>して白木御箱<sup>ニ</sup>入

右之通髓<sup>ニ</sup>受取申候、以上

上村庄屋病氣<sup>ニ</sup>付年寄

代印

寅四月三日申中刻

仁兵衛印

高槻村庄屋安左衛門殿

市場村庄屋

安左衛門印

一 四月四日、御用掛り御代官中様安左衛門宿<sup>江</sup>被成御出、御領分

他領共村々人足肝煎之面々被召寄、兩日之手合

人足共髮月代不見苦様<sup>ニ</sup>致させ、前日高浜村<sup>へ</sup>ハ村々

<sup>ニ而</sup>平生之朝飯給候<sup>而</sup>、高浜村<sup>へ</sup>参り四ツ時前<sup>ニ</sup>揃候

様<sup>ニ</sup>被仰付候、翌日之ハ爰元<sup>へ</sup>被成御着<sup>ニ</sup>候、同昼

之七ツ時御当地<sup>ニ</sup>揃候様<sup>ニ</sup>、人足集り所ハ本行寺・

光松寺・理安寺三ヶ寺<sup>へ</sup>集り候様<sup>ニ</sup>、尤三ヶ寺之内参り候寺之書

付村々<sup>へ</sup>被成御渡シ、第一御供之内咄シ雑談停止作法宜敷

(015)  
表

高浜村御当地へ揃候より御供仕廻候迄禁酒・喧嘩・口論堅  
不仕候様ニ、御止宿之内万一当地出火等候ハ、人足共致装束  
三ヶ寺ニ控人足共騒動不致候様ニ、御差図次第第三御本陣へ  
相詰御道具共受取、若御立退被成候様成節ハ何方迄も

御供仕候様ニ心得可罷在候、尤三ヶ寺門内へ入込候已後用事無之  
面々門外へ出シ申間鋪候、人足為押郡組耆人ツ、被遣候間、  
無抛用事ニ而人足之内外へ出候ハ、郡組肝煎之

面々其訳相断候而<sub>ニ</sub>出シ候様ニと被 仰渡候

(015)  
裏一 同五日、河州北条村へ唐崎村庄や幸助・安左衛門同道ニ而罷越候、

枚方宿庄屋中と一所ニ罷越候、兼而手合候処大雨故申

残シ北条ニ而出会一所ニ申合候、北条村ニ而御料之百性之由  
(姓)

勘兵衛と申人之方ニ宿借申候、北条村へ昼九ツ時致着候

一五日ニ御用掛り御代官中様安左衛門宅へ被成御出候而、和泉路

被成御廻り候<sub>ニ</sub>付御朱印其外耆人耆足も不被成御取、人馬多  
集メ置候得<sub>者</sub>以之外御不機嫌<sub>ニ而</sub>候由相聞<sub>江</sub>候得ハ、

為御馳走集候人馬御機嫌不宜儀<sub>ニ</sub>村々いたく

困窮させ候儀も宜ケル間敷と之御相談<sub>ニ而</sub>、

(016)  
表

高浜村出迎人足三百五拾人之内百人御減弍百五拾人<sub>ニ</sub>

被仰付、翌日三百拾耆人之内六拾耆人御減弍百五拾人<sub>ニ</sub>

被仰付候、西之方他領人足百五拾人之内三拾人

減シ百弍拾人<sub>ニ</sub>相成、御領分百六拾一人之内三拾人減シ

百三拾人、都合弍百五拾人<sub>ニ</sub>相成候

一 同日郡方<sub>方</sub>被仰付候由、段々雨天続候得ハ御出被成候節

急水檜尾川<sub>江</sub>出候<sub>而</sub>、前嶋村<sub>ニ</sub>暫御かこ被留候<sub>而</sub>、水引

落候迄御見合被成候儀も可有之候、其節<sub>ニ</sub>至り申上候<sub>而</sub>ハ

不急<sub>ニ</sub>候之間、北条村<sub>ニ而</sub>安左衛門・幸助取繕御用人中迄

(016)  
裏

申上候様ニと有之、唐崎村利兵衛北条村へ被遣候、其節右  
人足割減し候趣をも被 仰遣候

一大雨故大和川洪水ゆへ、誉田村被成御逗留候御廻状

大竹村方北条村へ七ツ半時参候故、早速飛脚ニ而申上候

一同六日、打続大雨ニ而候処、四ツ時高浜村庄屋半右衛門北条村へ

参り被申聞候趣ハ、昨今之大雨ニ而淀川筋六尺余之

出水ニ而嶋江水乗舟着悪鋪嶋之内ハ馬之且又駄荷

乗掛共中々嶋之間ハ通り不申候ニ付、高槻江罷出嘉兵衛殿・

利右衛門殿へも及相談、猶又御用懸り御代官中様へも

申上候処、左候ハ、北条村へ罷越候而各方へ可致相談候者、先

達而人足ハ高浜村ニ而継替、馬之儀ハ先格之通枚方

馬爰元迄通し候約束候得ハ、嶋之内駄荷乗掛共ふ

ら付候ハ、荷物楠葉村ニ而落し、舟之積、高浜村へ者

(017)  
表

高槻方迎馬遣シ可申候之間、荷物嶋之内ハ人足ニ而小あけ

致させ国役堤ニ而荷物付候手合ニ而、乗掛之御方様ハ嶋之

内ハ竹輿ニ而国役堤ニ而上ケ候様ニ各方ニ御相談申、先達而

枚方役人中ニ而も直通り之手合有之事ニ候ニ者

出水ゆへ右之通と申儀及対談、弥左様之相談ニ候ハ、

(017)  
裏  
北条村ニ被遊御着候ハ、早速其段申上候様ニと被仰付候

故、罷越候段被申聞候故、枚方役人中被居候宿ニ罷越

致相談候得者、出水故之儀ニ候得ハ御窺之上御差凶

次第如何様共可被成由被申候ニ付、御着之上安左衛門・

幸助右之趣可申上候之間、弥右之通ニ手合ニ致支度

高槻表ニも被仰上、馬之儀無間違高浜村ニ出迎候様ニ

可被致対談と申談、半右衛門ハ帰り被申候

一昨日方段々降続候ゆへ大和川も昨日方ハ八寸水増候へハ、今日も

(018)  
表

譽田<sup>ニ</sup>御逗留<sup>ニ而</sup>可有之候様<sup>ニ</sup>沙汰有之候之処、六日七ツ半時  
大竹村<sup>方</sup>弥今日も御逗留之由廻状北条村<sup>へ</sup>参候  
一同七日四ツ時大竹村御休<sup>へ</sup>被遊御着之由申来、早速高月<sup>へ</sup>  
唐崎村利兵衛帰シ申候、昨日御逗留之儀をも飛脚ヲ以昨日  
早々高月<sup>へ</sup>申上候

一七日七ツ時前北条村<sup>江</sup>被遊御着候ゆ<sup>へ</sup>、七ツ時過稻生左門様

御本陣<sup>へ</sup>罷出、御用人中様<sup>江</sup>懸御目、高月村庄屋共<sup>ニ而</sup>

御座候奉伺御機嫌候段申上候<sup>へ</sup>、入念被罷出候其段御上<sup>江</sup>

可仰上由御挨拶<sup>ニ而</sup>候、其上<sup>ニ而</sup>淀川出水<sup>ニ</sup>付高浜村船着

悪敷御座候<sup>ニ</sup>付、高浜村<sup>ニ而</sup>人馬継替申度旨御願申上、半右衛門と

申談候趣具<sup>ニ</sup>申上候処、洪水故之儀如何様共手支無之様<sup>ニ</sup>

いたし呉候様<sup>ニ</sup>と被仰出候、扱高月<sup>方</sup>被仰遣候檜尾川之儀

山近キ山川<sup>ニ</sup>御座候<sup>へ</sup>ハ、強雨降申候急<sup>ニ</sup>水嵩増候<sup>而</sup>

(018)  
裏

半時一時之内被越不申儀御座候、然共雨止候へハ暫之内ニ  
水干落申候へハ、万一御通り懸候節急水出申候ハ、前嶋村  
暫御かこ被留被下候様ニ、庄屋家一軒ハ御腰被懸候家

御座候、外も小家ニ而御腰被懸候様成家居無御座候、此段兼而

御断申上候様ニ地頭役人被申付候旨申上候得ハ、段々入

念候儀御地頭御役人中へも宜申上候様ニと被仰候、夫々神保宮内様

御本陣へ参り、御用人中様へ懸御目奉伺御機嫌、高浜村

渡シ場之儀左門様御同様ニ申上候処、御挨拶御同前ニ而人馬

継証文ハ致如何候哉と被仰候故、其儀ハ如何様共御差図

被下候様ニ申上候得ハ、高月泊り之事ニ候得ハ、高槻ニ而可被

仰付由被仰出候、檜尾川之儀ヲも左門様御同様ニ申上候処

御挨拶も御同然ニ而候

一 岩瀬吉左衛門様御本陣へ参り、御用人中様へ懸御目奉伺御機

(019)  
表



嫌、高浜村舟着之儀、檜尾川之儀御二方様ニ而申上候

通ニ申上候処、御挨拶も御同様人馬繼証文之儀も被成御尋候而、然ハ高

槻表ニ而可被仰付候而御用人野本三太夫様被仰候ハ、高浜村方

高槻迄村続御地頭附里数等書付差出候様ニ被仰付、幸

五領組庄屋中水難之儀為御願北条村ニ居罷申候

之故、相談ニ而左之通書付認上ル

覚

鈴木清蔵様御知行所

高浜村渡シ場方上牧村迄

鈴木清右衛門様御知行所

拾五町

烏丸大納言様御家領

永井伊賀守様御知行所

上牧村方鵜殿村迄貳拾町

鈴木清右衛門様御知行所

烏丸大納言様御家領

鵜殿村方前嶋村迄七町

(020)  
表

(019)  
裏

永井飛驒守様御知行所

永井飛驒守様御知行所

〆 壺里拾町

前嶋村〆東天川村〆続高月迄  
拾八町  
但シ五拾町壺里積り

右之通<sup>ニ</sup>御座候、以上

高槻村庄屋

安左衛門

唐崎村庄屋

幸助

寅四月七日

右之通三通相認、岩瀬吉左衛門様御用人三太夫様へ

持参いたし、外御二方様<sup>ニ者</sup>不被 仰付候得とも

御前様方被 仰付候故、三通相認申候如何可仕哉と

窺候処、此方方可遣と被 仰候故、三通共一所<sup>ニ</sup>指上候、夫方

北条村出立高槻表へ七日夜九ツ過帰着、御用掛り

御代官中様へ右之様子申上候処、郡御奉行中様へも

直<sup>ニ</sup>参り申上候様<sup>ニ</sup>被 仰付、兩人共参り様子申上ル

(020)  
裏

一同八日朝五ツ時方高浜村<sup>江</sup>芥川村庄屋嘉兵衛・土橋村

庄屋利右衛門、肝煎之面々六人・馬指式人・雇六尺

八人召連参候、琉球・馬桐油・赤合羽等馬<sup>ニ</sup>付候<sup>而</sup>

遣候、上田部村・真上村之人足ハ高槻<sup>江</sup>集り候<sup>而</sup>高浜村

<sup>江</sup>参候、上田部村人足之内四人枚方<sup>ハ</sup>見人<sup>ニ</sup>遣候、内式人ハ

北条村御出立之様子枚方<sup>ハ</sup>申来候ハ、高月<sup>ハ</sup>壺人

高浜村<sup>ハ</sup>壺人可致注進、残り式人ハ枚方<sup>ハ</sup>御着之注進

(021)  
表

両所<sup>ハ</sup>いたし候様<sup>ニ</sup>手合、枚方御立之儀ハ大塚村方注進

手合、高浜村<sup>ハ</sup>御見<sup>ハ</sup>被成候得ハ段々致注進候筈<sup>ニ</sup>、

手合之通何も無間違注進在之候

道具支度之覚

一 琉球百枚

荷ほゝひの積り大坂<sup>ニ</sup>而相調相濟候<sup>而</sup>払申候

一 馬桐油廿枚

但荷ほゝひハ雨天<sup>ニ</sup>候得共、向之方方参り候故入不申候

一 駕籠式拾挺

伏見<sup>ニ而</sup> 損料借り、雨天<sup>ニ</sup> 候得共入不申候

損料かり入不申候

高浜村へハ五領組<sup>ヲ</sup> 出ス

市場村迄ハ西方御他領<sup>ヲ</sup> 出ス

一 赤合羽百丈

伏見<sup>ニ而</sup> 損料かり、是ハ雨天故看板人足共へ

きセ申候

(021)  
裏

一 駕籠桐油式拾枚

伏見<sup>ニ而</sup> 損料かり入不申候

右合羽駕籠桐油損料かり様、雨天<sup>ニ而</sup> 何程天氣<sup>ニ而</sup> 何程と

申極<sup>(カ)</sup> のいたしかり申候

一 御三頭御駕籠之者看板式拾四

帯廿四 手ぬくい廿四

きやはん廿四

殿様<sup>ヲ</sup> 被成御借候、相濟早速返納

六尺式拾四人内 八人 高槻町人雇 兩日相勤

十六人 五領組<sup>ヲ</sup> 出ス 兩日相勤

一 高挑灯三張台共 庄屋安左衛門内三ヶ所<sup>ニ</sup> 夜中灯<sup>ヲ</sup> シ置、

是ハ先格之通拝借被 仰付、五日<sup>ニ</sup> 御会所<sup>ニ而</sup> 下

(022)  
表

目付衆方受取相済早速指上ル、ろうそく拾式丁渡ス

内三丁余ル、高槻村年寄孫右衛門ニ御会所へ持参返シ納

一 銀壹貫目先年ハ拝借被 仰付候得共、御難渋之

時節ニ而難成候間、其方ニ而才覚いたし相勤候様ニと

御頼ニ付、御用掛り御代官尾崎源藏様・伊藤朴助様

御表印四人庄屋連判ニ而安左衛門致口入候

高浜村江出迎人足割

一五人

西天川村

一六人内式人看板

井尻村

内式人看板 肝煎庄兵衛

肝煎次郎左衛門

一十七人

安満村

一四人 皆看板

東天川村

内六人看板 肝煎甚右衛門

肝煎藤兵衛

(022)  
裏

一 式拾人内六人看板 高浜村

一 十四人内四人看板

野田村

肝煎藤兵衛

肝煎三郎右衛門

一 式人皆看板

同

前嶋村

一 十三人内四人看板

同

萩庄村

一 九人内式人看板

同

中小路村

一 十二人内四人看板

同

梶原村

一 八人内四人看板

同

桜井村

一 十三人内四人看板

同

野中村

一 式人皆看板

同

鶉殿村

一 式人皆看板

同

神内村

一 十八人内四人看板

同

大塚村

一 廿一人内十人看板

同

上牧村

一 六人内式人看板

同

下村

一 十五人内四人看板

同

古曾部村

(023)  
表

一 五人内式人看板

同

成合村

一 七人内式人看板

同

大塚町

与三右衛門

清兵衛

久左衛門

五兵衛

三郎右衛門

長兵衛

長兵衛

次右衛門

孫助

太右衛門

六左衛門

庄左衛門

一 式人

番田村

一十一人内四人看板

真上村

同 勘兵衛

一十一人内式人看板

上田部村

一九人内式人看板

下田部村

同 利左衛門

同 忠左衛門

一九人内式人看板

辻子村

同 三右衛門

〆 式百五拾人

外ニ五人荷付人足

芥川村  
唐崎村 方出ス

但馬功者成もの也、乗掛駄荷付申人足

内

八拾人 看板人足

外ニ八人御六尺高槻雇

十六人 上牧村・萩庄村・梶原村

但人足之内ニテ上打遣

(023)  
裏

百七拾人 平人足

内

六拾人 用意かこ廿挺 三人掛り

六拾六人 馬三拾三疋 添人式人掛り

四人 枚方<sup>へ</sup>見人

四十人 余慶手明追々注進、小遣人足・笠箕持

人足・中飯持等也

御朱印人足五拾四人 看板人足八拾八人

十六人 稻生様

十八人 神保様

廿人 岩瀬様

(024)  
表

残テ三十四人 手代り助人之用意

一馬三拾三疋 内 九疋芥川村馬、四疋三嶋江村馬、八疋唐崎村馬、  
五疋宮田村郡山<sup>ら</sup>雇、七疋五ヶ庄組



内

九疋 稻生左門様 但六疋乗掛 三疋駄荷

八疋 神保宮内様 但シ五疋乗掛 三疋駄荷

九疋 岩瀬吉左衛門様 但シ五疋乗掛 四疋駄荷

〆 式拾六疋

残テ七疋 用意馬

右馬之儀ハ前日後日共同前

(024)  
裏

一 八日老番御着 神保宮内様 肝煎 下田部村三右衛門  
唐崎村利兵衛

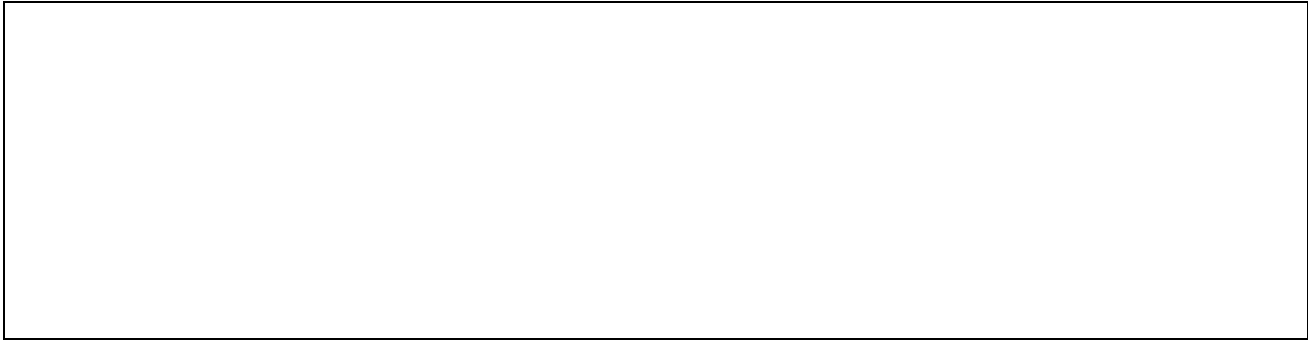
二番 岩瀬吉左衛門様 同 上田部村源右衛門  
安満村五左衛門

三番 稻生左門様 同 東五百住村藤九郎  
芥川村七郎兵衛

右御行烈御三頭様御同様

御具足 人足式人

対御挟箱 御手人 手代り四人用意



(025)  
表

御乗物

四人

四人手代り六人掛りニ遣  
式人跡方参ル

御先道具

御手人

手代り壺人

御持鏝

御手人

手代り壺人

御立傘持

御手人

手代り壺人

御茶弁当持

人足壺人

手代り壺人

御家老鏝持

御手人

手代り壺人

同挟箱持

御手人

手代り壺人

合羽籠式荷

人足式人

手代り式人  
(ママ)

竹馬式荷

人足式人

手代り式人

御長持式棹

人足四人

手代り八人

御朱印伝馬桐油持

人足壺人

手代り壺人

(025)  
裏

右之通手代り人足等付候得共、壺人壺疋も御取不被成候、  
手明人足嵩高ニ目立候間、式三丁も引下り

候様ニ被 仰候故、手明人足・用意馬引下ケ嘉兵衛・

理右衛門押候<sup>而</sup>御跡方罷歸候、尤高浜村御船着<sup>ニ而</sup>

嘉兵衛・利右衛門、高月人馬方庄屋共<sup>ニ而</sup>御座候と申上御

機嫌窺候

一 稻生左門様高浜村へ御着候節、夥敷雨降候ニ付

御願申上、駄荷乗掛共<sup>ニ</sup>前嶋村迄渡シ船<sup>ニ而</sup>下ケ

前嶋村<sup>ニ而</sup>馬<sup>ニ</sup>付申候、夫故御着遅相成候、但シ

四駄分

一 御着之節、御役人中様御出迎左之通

(026)  
表

郡御奉行

駒野軍兵衛様  
飯田善兵衛様

前嶋村・鵜殿村領境<sup>江</sup>

御使者

小倉藤左衛門様

右同所<sup>江</sup>

町御奉行

鷺見七郎太夫様

壺丁田町入口<sup>江</sup>

人馬御用掛り  
御代官 伊藤朴助様  
尾崎源蔵様

同所木戸内番所之  
東北側<sup>江</sup>

永井飛驒守内人馬方役人と御名札被 指上候

大御目附 池田孫太夫様 壱丁田番所際

本町通り<sub>江</sub>

右之通何も麻上下<sub>ニ而</sub>御格合<sub>ニ而</sub>之御供廻り

牽馬<sub>ニ而</sub>御勤被成候

(026)  
裏

一前嶋村方高槻御本陣迄御先手組小頭壱人

御足輕御兩人宛、稻生様へ小頭浅田数右衛門殿御組

兩人、神保様へ小頭大河原嘉右衛門殿御組兩人、岩瀬

吉左衛門へ小頭中浜吉兵衛殿御組兩人

一御着之日朝方時廻り御物頭小森三郎左衛門様・榊原

源右衛門様御代ル々<sub>(ママ)</sub>火事御装束騎馬<sub>ニ而</sub>御組

十四人小頭中壱人宛御連被成御廻り、尤御足輕

中ハ鳶口為御持馬之跡方水溜籠御持セ、時々

之間ヲ御給人中様御兩人宛御組合<sub>ニ而</sub>不絶御廻り被成候

(027)  
表

御本陣之覺

御使番御知行千五百石

一 稻生左門様

御人数御上下三拾三人

紙屋八郎治

外<sup>ニ</sup>御小人目付<sup>一</sup>七人

御下宿  
かき屋六左衛門

御紋七ツ星

馬印



阿部伯耆守様御組御知行千五百石

一 神保宮内様

御人数御上下三拾三人

安田屋喜左衛門

御紋壺ツ葛

馬印



松平日向守様御組御知行千七百石

一 岩瀬吉左衛門様

御人数御上下三拾三人

鈴木屋彦兵衛

御紋三本杉

馬印



御下宿  
藁屋五兵衛

(027)  
裏

右之通御下宿之用意在之候得共入不申候、彦兵衛家ハ

せまく候故野田屋善兵衛隠居を手別し隠居と申

うら道を付下々之衆を入ル

右御三頭様御着被遊候節、早々人馬方庄屋共

御機嫌窺<sup>ニ</sup>御三方様共<sup>ハ</sup>参候義、御機嫌宜敷候

一八日酉之刻稻生左門様御本陣へ安左衛門・唐崎村幸助

兩人御機嫌窺<sub>ニ</sub>參、御用人田口小野右衛門様被仰候<sub>者</sub>

念入被罷出候、唐崎村ハ道順<sub>ニ</sub>候哉と御尋被成候故、御同順<sub>ニ</sub>ハ

無御座候得共、人馬之同役<sub>ニ</sub>御地頭<sub>ヲ</sub>被 仰付候段申

上候得<sub>者</sub>、尤之義然ハ兩人印形<sub>ニ</sub>而証文指上候様<sub>ニ</sub>

被 仰付候、左之通認指上申候、明朝御出立奉窺候所

六ツ半時と被 仰出候

指上申人馬之事

一 御朱印 人足八人

一 御朱印 伝馬十三疋  
内四疋人足<sub>ニ</sub>引替指出申候

人足十六人

馬 九疋

右之通高浜村渡場<sub>ヲ</sub>摂州高槻迄壹里拾町

(028)  
表

(028)  
裏

場所人馬繼立申所実正<sup>二</sup>御座候、右之外<sup>一</sup>壱人<sup>二</sup>疋も  
余計指出不申候 御主人様ハ不及申上<sup>二</sup>御内衆様  
迄御非分之儀毛頭無御座候、為後日仍<sup>而</sup>如件

延享三寅年四月八日

撰州嶋上郡

高槻村庄屋

安左衛門 印

唐崎村庄屋

幸助 印

稻生左門様御内

田口小野右衛門殿

上原伊兵衛殿

(029)  
表

指上申人馬之事

一御朱印

人足八人

一御朱印

伝馬拾三疋  
内四疋人足ニ引替指出申候

人足十六人

馬 九疋

右之通撰州嶋上郡高槻<sup>方</sup>市場村迄貳里半之所

人馬繼立申所実正ニ御座候、右之外壺人壺疋も余計

指出不申候 御主人様ハ不及申上御内衆様迄御非分

成儀毛頭無御座候、為後日仍<sup>而</sup>如件

(ママ)

延享三寅年四月八日

(029)  
裏

撰州嶋上郡

高槻村庄屋

安左衛門 印

同国同郡唐崎村

庄屋

幸助 印

稻生左門様御内



田口小野右衛門殿

上原伊兵衛殿

一 神保宮内様御本陣へ御機嫌奉窺候処、村高御尋被成  
御書面其後両通証文認指上申候、文言稻生様同様

(030)  
表

指上申人馬之事

一 御朱印 人足八人

一 御朱印 伝馬十三疋  
内五疋人足引替指出シ申候

人足拾八人

馬 八疋

右之通高浜村渡シ場方撰州高槻迄壺里拾町場所

人馬繼立申候所実正ニ御座候、右之外壺人壺疋も余計  
指出不申候 御主人様ハ不及申上ニ御内衆様迄御非分

之儀毛頭無御座候、為後日仍而如件

(030)  
裏

延享三寅年四月八日 撰州嶋上郡高槻村庄屋

安左衛門 印

同国同郡唐崎村庄屋

幸助 印

神保宮内様御内

中原権左衛門殿

加藤治右衛門殿

(031)  
表

指上申人馬之事

一御朱印 人足八人

一御朱印 伝馬十三疋

内五疋人足二引替指出申候

人足拾八人

馬 八疋

(031)  
裏

右之通撰州嶋上郡高槻<sup>方</sup>市場村迄式里半之所  
人馬繼立申候処実正<sup>ニ</sup>御座候、右之外<sup>人</sup>尅疋も余計  
指出不申候 御主人様ハ不及申上<sup>ニ</sup>御内衆様迄御  
非分成義毛頭無御座候、為後日仍<sup>而</sup>如件

延享三寅年四月九日

撰州嶋上郡

高槻村庄屋

安左衛門 印

同国同郡唐崎村

庄屋

幸助 印

神保宮内様御内

中原権左衛門殿

加藤治右衛門殿

(032)表

一岩瀬吉左衛門様御本陣へ御機嫌奉窺候処、両御本陣へ

御機嫌窺<sub>ニ</sub>罷越御用多<sub>ニ</sub>而障入、刻限延引

仕候<sub>ニ</sub>付、御用人野本三太夫様御腹立<sub>ニ</sub>付、稻生様へ

御機嫌窺候<sub>而</sub>御前様へ参上仕候処、稻生様殊之外

御着御延引故隙取遅り罷成候段申上候得共、然ハ

神保様<sub>へ者</sub>未参り不申候哉と御尋被成候ゆへ未

参り不申段申上候得ハ、左候ハ、御尤之由被<sub>而</sub>仰候

村高御尋其上<sub>ニ</sub>而両通証文被<sub>而</sub>仰付認差上

申候通左之通

(032)裏

指上申人馬之事

一御朱印

人足八人

一御朱印

伝馬拾五疋  
内六疋人足<sub>ニ</sub>引替指出申候

人足貳拾人

馬 九疋

右之通高浜村渡シ場方撰州高槻迄壺里拾町

場人馬繼立申候処実正<sub>ニ</sub>御座候、右之外壺人壺疋も

余計指出不申候 御主人様ハ不及申上<sub>ニ</sub>御内衆様迄

御非分成儀毛頭無御座候、為後日仍<sub>而</sub>如件

(033)  
表

延享三寅年四月八日

撰州嶋上郡

高槻村庄屋

安左衛門 印

同国同郡

唐崎村庄屋

幸助 印

岩瀬吉左衛門様御内

野本三太夫殿

高橋四郎左衛門殿

(033)  
裏

指上申人馬之事

一 御朱印

人足八人

一 御朱印

伝馬十五疋

内六疋人足<sup>ニ</sup>引替指出申候

人足<sup>ニ</sup>拾人

馬 九疋

右之通撰州嶋上郡高槻<sup>方</sup>市場村迄<sup>二</sup>式里半之処

人馬繼立申候<sup>処</sup>実正<sup>ニ</sup>御座候、右之外<sup>老</sup>人<sup>老</sup>疋<sup>も</sup>

余計指出不申候 御主人様<sup>ハ</sup>不及申上御内衆様

迄御非分成義毛頭無御座候、為後日<sup>而</sup>仍<sup>如</sup>件

(034)  
表

延享三寅年四月九日

撰州嶋上郡高槻村庄屋

安左衛門

同国同郡唐崎村庄屋

幸助

岩瀬吉左衛門様御内

野本三太夫殿

高橋四郎右衛門殿

(034)  
裏

一 岩瀬吉左衛門様御用人野本三太夫様被 仰付候者、是方

市場迄道順・村々里数書付差上候様ニ被 仰付候

(頭カ)

故、御尋之御用相勤候様ニ御地領方郷中庄屋共

被 仰付当地相詰罷在候、是等ニ被 仰付被下候様ニ

申上候処、然ハ其方方申伝候様ニ被 仰付則右御用

掛り庄屋中へ申通ス

高槻村方市場村迄 里数覚

永井飛驒守殿知行所

高槻村

御同領 庄所村

(035)  
表

御同領 津江村

御同領 東五百住村

御同領 西五百住村

ノ 式拾四町

渡部民部様御代官所

富田村

但シ西五百住村領境方中城村領境迄十六町

石原清左衛門殿御代官所

小田切喜兵衛殿御知行所

中城村 四町

石原清左衛門殿御代官所

庄村 式丁

右同断 戸伏村

但シ茨木村領境迄四町

(035)  
裏



永井伊賀守殿御知行所

茨木村

但シ御通り筋十町

御除領小堀十左衛門殿御預り

板橋民部殿御知行所

下中條村

但シ茨木村高橋と下中條村出在家迄

三町五十弍間出在家と奈良村領

境迄六町十五間

板橋民部殿

佐藤三四郎殿

御知行所

奈良村

但シ宇野<sup>部</sup>村領境迄八町

小堀十左衛門殿御代官所

宇野辺村 三町半

(036)  
表

丑寅村

右同断 東蔵垣地村

西蔵垣内村

但シ三ヶ村入組六町

織田幸次郎殿御預所

乙辻村 領内壹町

右同断 太中村

但領内四十五間

右同断 小坪井村

但シ小坪村方市場村迄凡七町

高槻方市場村迄村数貳拾ヶ村

高槻御城下方所々<sup>江</sup>道法 但シ是ハ書上不申候

一高浜村渡場<sup>エ</sup> 壹里拾町 淀御城下<sup>ハ</sup> 三里

(036)  
裏



|                                    |                     |                                       |   |                        |  |
|------------------------------------|---------------------|---------------------------------------|---|------------------------|--|
|                                    |                     | (037) 裏                               | (037) 表                                 |                        |  |
| 一 前嶋村 <sup>エ</sup> 十八町             | 吉峯 <sup>エ</sup>     | 一 一郡山宿 <sup>エ</sup> 弐里                | 一 一榎尾川 <sup>エ</sup> 淀川迄 <sup>エ</sup> 弐里 | 一 一本山 <sup>エ</sup> 弐里半 | 一 一本山 <sup>エ</sup> 弐里                                |
| 一 一字治 <sup>エ</sup> 六里 <sup>五</sup> | 西岩倉 <sup>エ</sup>    | 一 一尼崎 <sup>エ</sup> 七里                 | 一 一嵯峨 <sup>エ</sup> 六里半                  | 一 一京二条 <sup>エ</sup> 六里 | 一 伏見 <sup>エ</sup> 四里                                 |
| 一 一芥川宿 <sup>エ</sup> 十三町            | 惣持寺 <sup>エ</sup> 壹里 | 一 一富田村 <sup>エ</sup> 三十町               | 一 一待宵塚 <sup>エ</sup> 壹里半                 | 一 一神崎 <sup>エ</sup> 五里  | 一 山崎 <sup>エ</sup> 弐里                                 |
|                                    | 御朱印三十石              | 一 一普門寺 <sup>領</sup> 三十町               | 一 一能因塚 <sup>エ</sup> 十三町                 | 一 一伊丹 <sup>エ</sup> 六里  | 一 神峯山寺 <sup>エ</sup> 壹里半                              |
|                                    | 御朱印三十石              | 一 一西宮 <sup>エ</sup> 九里半 <sup>八</sup>   | 一 一金龍寺 <sup>エ</sup> 壹里余                 | 一 一有馬 <sup>エ</sup> 九里  | 御朱印十七石内 <sup>五</sup> 十 <sup>五</sup> 弐 <sup>五</sup> 石 |
|                                    | 御朱印七石               | 一 一勝尾寺 <sup>エ</sup> 三 <sup>八</sup> 里半 | 一 一御朱印三十石                               | 一 一御朱印三十石              | 御朱印三十石   |
|                                    |                     | 一 一御朱印七石                              |   |                        | 本山寺<br>神峯山寺  |

一 茨木村<sup>エ</sup> 壹り半

兵庫<sup>エ</sup>

拾三里余

一 池田村<sup>エ</sup> 五り余

吹田村<sup>エ</sup>

四り

一 多田院<sup>エ</sup> 六り

山田市場<sup>エ</sup>

弐り半

一 大坂京橋<sup>エ</sup> 五里

右之通書付被指上候処、又々御尋有之、九日御出立

(038)  
表

前<sup>ニ</sup>左之通之書付被指上候

覚

一 御通り道筋先年<sup>ニ</sup>御巡見被為遊候寺社山伏等

無御座候御事

一 大キ成寺社御朱印地等御通筋<sup>ニ</sup>無御座候御事

一 浦方漁御運上之儀無御座候御事

一 諸事御運上筋之儀無御座候御事

一 所名物御献上物無御座候御事

一 牢人地土無御座候御事

(038)裏  
一 川舟之儀前嶋村ニ過書式拾石舟壹艘、居村方

伏見・鳥羽・横大路迄通用仕候、其外村々ニ者

無御座候御事

一 檀紙漉候者村々ニ無御座候御事  
(檀カ)

一 馬次并市場無御座候御事

一 御通筋名所・古跡・名木并勝レタル大木無御座候

御事

一 御高札之儀

切支丹之御高札壹枚  
前嶋村ニ御座候

(039)表  
右同断  
東天川村ニ御座候

御高札四枚  
忠孝 毒薬  
人売買 切支丹  
高槻村ニ御座候

切支丹之御高札壹枚  
庄所村ニ御座候

但シ村中ニ御座候

同断

津江村<sub>ニ</sub>御座候

同断

同断

東五百住村<sub>ニ</sub>御座候

同断

同断

西五百住村<sub>ニ</sub>御座候

但村東入口<sub>ニ</sub>御座候

一 自分高札無御座候御事

一 所<sub>ニ</sub>無之物之儀、作物之外京大坂<sub>ニ</sub>而相調申候御事

(039)

裏

一 宗旨改之儀村方庄屋年寄吟味仕、帳面地方役人<sub>江</sub>

指出吟味之上宗旨改役人<sub>江</sub>相渡、猶又吟味之

上銘々旦那寺住持印形取り申候御事

一 高貳百八拾四石五斗三升七合

免七ツ四分取

前嶋村

一 高六百五拾四石七斗六升

免七ツ壹分取

東天川村

一 高九百六拾三石九斗八升五合

免七ツ四分取

高槻村

此内四百貳拾石六斗四升八合

御城地<sub>ニ</sub>引

一 高四百九十石七斗三升

免七ツ取

庄所村

一高五百七拾九石七斗壹升壹合 免七ツ四分取 津ノ江村

(040)表  
一高六百九拾六石八斗 免七ツ九分取 東五百住村

一高六百拾四石七斗六升貳合 免八ツ取 西五百住村

右ハ前嶋村方西五百住村迄御通り筋高槻領

分之村々ニ而御座候、右免相ハ豊年之定ニ而

御座候得共次第ニ水損相増近年右免相之

御收納半減余も年々減少仕候御事

一年貢諸役夫代米之義高壹石ニ付壹升貳合宛

(畿力)

一五畿内掛り御国役銀其外村方諸入用等毎年

相掛り申候御事

(040)裏  
右之通御座候、以上

御通筋村々

前嶋村

東天川村

高槻村

庄所村

津江村

東五百住村

西五百住村

一能因法師之塚高槻方道法拾三町北古曾部村<sub>ニ</sub>御座候

(041)  
表

一金龍寺高槻方道法壺里北<sub>ニ</sub>御座候

但シ御朱印三拾石

一待宵小侍従之塚高槻方道法壺里北東<sub>ニ而</sub>

桜井村<sub>ニ</sub>御座候

右三ヶ村共御通道筋<sub>ニ而</sub>ハ無御座候

右之通書付三通相認、岩瀬吉左衛門様<sub>江者</sub>上田部村



庄屋又八・安満村庄屋甚左衛門持参指上、稻生左門様へハ  
柱本村庄屋太郎左衛門・大塚町庄屋又右衛門持参指上候処、  
神保宮内様<sup>ニ而</sup>ハ作者之名印候様<sup>ニ被</sup> 仰付

(041)  
裏

高槻領庄屋太郎左衛門・又右衛門と書上候、丹州南掛村庄屋  
勝助、若丹州表御領分之儀御尋も可在之哉と

高槻御支配御代官中<sup>ハ</sup>御呼被置候<sup>而</sup>、西天川村庄屋

喜右衛門方<sup>ニ</sup>一所<sup>ニ</sup>寄会居申候得共、丹州之儀ハ御尋も

無之候

一四月九日高槻御出立、山田市場村迄送り人足四月八日

七ツ時<sup>ハ</sup>高槻へ相詰候、但九日之御出立、八日之申之刻<sup>ハ</sup>

御用掛り御代官<sup>ハ</sup>被 召呼候訳ハ、八日凡七ツ時<sup>ニ</sup>

御着被遊候後、万々一出火類焼等御本陣近所<sup>ニ</sup>

出来候時、御立のき可被遊旨被 仰出候義も出来

可申哉と御用意ニ御座候、右人足集り所

(042)  
表

本行寺<sup>江</sup> 稻生左門様付人足相詰ル

肝煎茂右衛門・嘉兵衛

同 太郎兵衛

一 富田村式拾三人内五人看板

一 中城村四人内二人看板

同 中条方勤ル

同断

一 庄村五人

一 戸伏村三人内二人看板

同 市兵衛・彦兵衛

同 庄兵衛

一 茨木村式拾三人内五人看板

一 下中条村四人

同 仁兵衛

同 六左衛門

一 奈良村十人内三人看板

一 宇野辺村九人内二人看板

同 藤兵衛

同 喜兵衛

一 西蔵垣内村六人内式人看板

一 丑寅村五人内一人看板

同断

同 九兵衛

一 東蔵垣内村六人内式人看板

一 太中村七人内二人看板

同 太中村方勤ル

同断

一 乙辻村六人内二人看板

一 小坪井村九人内二人看板

(042)  
裏

百式拾人内六拾人御三人様駕籠式拾挺

残ヲ六拾人内三拾人看板人足

光松寺<sup>江</sup> 神保宮内様付人足相詰ル

肝煎平次郎

同 庄兵衛

一 庄所村六人内二人看板

一 西天川村六人内式人看板



(043)  
表

理安寺<sub>江</sub>

岩瀬吉左衛門様

付人足相詰ル

六拾四人内看板人足式拾九人

同 十助

一 唐崎村九人内六人看板

同 喜左衛門

一 三嶋江村十人内五人看板

同 甚兵衛

一 柱本村十人内五人看板

同 九郎右衛門

一 西面村十四人内六人看板

同 源右衛門

一 西冠村四人内一人看板

同 孫兵衛

一 前嶋村五人内二人看板

肝煎幸八

一 津江村八人内六人看板

同 和助

一 東五百住村九人内五人看板

同 又左衛門

一 西五百住村八人内五人看板

同 勘兵衛

一 芝生村九人内三人同断

同 藤兵衛

一 東天川村拾人内四人看板

同 茂兵衛

一 氷室村六人内二人同断

同 市右衛門

一 土室村四人

五拾四人 内三拾人看板人足

外<sub>三</sub>御乗物六人<sub>(尺九)</sub>

式拾四人内

八人 高月<sub>二</sub>而雇  
十六人 五領組<sub>五</sub>雇

乗掛駄荷付人足

(043)  
裏

拾人

芥川村・唐崎村方出ス

小繼内遣人足

十式人内

七人  
五人

高槻村  
土橋村

右之通三ヶ寺<sup>江</sup>入置候<sup>而</sup>九日明六ツ時方

稻生左門様付人足ハ本行寺方呼出、魚屋町北角へ詰置

神保宮内様付人足ハ光松寺方呼出、壺丁田番所際へ遣置

岩瀬吉左衛門様付人足ハ理安寺方呼出、円成寺前へ遣置

右三ヶ所<sup>江</sup>九日六ツ時揃置

(044)  
表

馬かこハ安左衛門宅前<sup>江</sup>六ツ時不残揃候<sup>而</sup>段々ニ分遣ス

壺番之御立 五ツ半時

稻生左門様

芥川村庄屋嘉兵衛付

肝煎芥川七郎兵衛  
東五百住村藤九郎

但シ御出立明ケ六ツ時ニ御出立候様ニ相聞候へ共、昨夜御三人様

御寄会殊之外夜更候故、今日御立遅成申候

二番御出立四ツ時前

岩瀬吉左衛門様

土橋村庄屋

理右衛門付

同上田部源右衛門  
安満村五左衛門

三番御出立四ツ時  
神保宮内様

唐崎村庄屋

幸助付

同下田部村三右衛門  
唐崎村利兵衛

(044)  
裏

右之通段々御出立被遊候、御行列駄荷乗掛馬添

手代り等昨日御着之通、安左衛門儀不快相残ル、庄屋共へ

断<sub>ニ而</sub>相残跡万端取しまり候様<sub>ニ</sub>御用掛り御代官中様へ

申上山田市場へ御供不仕候、土橋村庄屋利右衛門・芥川村

庄屋加兵衛・唐崎村庄屋幸助右三人并肝煎中六人

御三方様へ相分り、御跡を余計人馬かこ押御供

申上候、かこ之儀尅挺も入不申候

一御用掛御代官中様夜中安左衛門宅<sub>ニ</sub>御詰被成候、御出立

前<sub>ニ</sub>御本陣前へ羽織立付<sub>ニ而</sub>御見廻り、駄荷乗掛

等付捌人足手合相濟候<sub>而</sub>喜右衛門宅<sub>ニ</sub>御控被成候、

御出立之節御見送り<sub>ニ</sub>ハ御出不被成候

(045)  
表

一御家老中様八日御着後三御本陣へ御出、尤町御奉行様・

両御郡方様・御目附中様ニも御見廻り被遊候

一御家老中三嶋勘左衛門様・関源太夫様九日朝御出立前ニ

御出被遊候、御見送りハ無之候

九日

一大御目附芥川文左衛門様 大手先江御出向御見送り

一町御奉行鷹見七郎太夫様 高西町出口へ右同断

一郡御奉行様方 西五百住村江右同断

(045)

裏

一御先払御着之通、御三頭へ小頭中三人御組六人

一八日夜中郡御奉行様・町御奉行様大津屋庄三郎ニ御詰

被遊候、昨夜郡御奉行様・町御奉行様御同道ニ而

三御本陣へ御機嫌窺ニ御出被遊候、御使者ハ屋鋪ニ

大御目附中様・御元へ中様・御步行目附・下目附・買物役

中・御仲間頭中杯御詰被成候

一御通筋小路ニ候ハ辻固メニ御足輕棒突、尤下目附中

所々<sup>江</sup>辻固メ<sup>ニ</sup>御出羽織立付

一西天川村・東天川村・前嶋村ハ前日御通り筋掃除

(046) 表  
人足旁々以御用掛り御代官中様<sup>江</sup>御願<sup>ニ</sup>而翌日

御分ケ兩日<sup>ニ</sup>人足指出候

一雨天<sup>ニ</sup>付檜尾川・芥川筋橋落候<sup>而</sup>歩行越<sup>ニ</sup>成候ハ、

川越人足檜尾川<sup>へ</sup>者野田村・東天川村・前嶋村

冠村<sup>を</sup>指出候筈、芥川筋<sup>へ</sup>ハ芥川村・芝生村・唐崎村

<sup>を</sup>人足六拾人御呼寄渡場下手<sup>ニ</sup>控居申候、若

歩行越成不申候ハ、檜尾川<sup>江</sup>ハ前嶋村<sup>を</sup>船廻し

候筈、芥川筋<sup>へ</sup>ハ八日昼夜雨降候故、水出候ハ、

三嶋江村・鳥養村渡し船高浜村<sup>を</sup>直<sup>ニ</sup>唐崎村<sup>へ</sup>

御廻し被置候、外<sup>ニ</sup>柱本村<sup>を</sup>八石積壺艘唐崎村<sup>を</sup>

(046) 裏  
嶋通り小船五艘御呼上<sup>ニ</sup>被成候<sup>而</sup>、以上船八艘渡り

場之下手ニ控居申候、然共両川共橋丈夫ニ而人馬共  
無滞橋を通候

一 駄賃御定本馬一疋壹里ニ付六拾六文宛、但シ三拾六町  
壹里之積り

半駄賃・から尻馬壹里ニ付式拾四文宛

人足壹人壹里ニ付拾八文ツ、

駕籠壹挺壹里ニ付三拾六文宛

右之通御定ニ而候得共 御朱印之外壹人壹疋も

御取不被成候、御雇も無之候

(047)  
表

一 高槻村雇六尺八人 川之町仁兵衛・同町長兵衛・

同町五兵衛・紺屋町佐兵衛・川之町市兵衛・同町市兵衛・

同町長兵衛・同町半右衛門・同町与兵衛

一 同馬宿六軒

川之町角兵衛

同町勘兵衛



新川之町五郎右衛門 新川町喜左衛門 馬町与右衛門

馬町伝兵衛 上田部村<sub>ニ</sub>七疋

ノ

右之通名前書付御上願候処、町々分町御奉行様より被仰渡候

一人足溜り寺三ヶ寺<sub>江</sub>寺社御奉行様<sub>江</sub>被仰渡候

(047)  
裏

安左衛門宅<sub>江</sub>三寺共相控手合之儀申談、御用掛り御用掛御代官中様<sub>江</sub>も御挨拶之御手紙被遣候

御宿<sub>江</sub>被 仰付候條々

條々

一今度御国廻り<sub>ニ</sub>付泊り昼休所々<sub>ニ而</sub>、兼々被

仰出候外之物一切調置申間鋪候事

一諸色買物之儀其所之相場を以可致対談候、若

(048)  
表

相場方下直<sup>ニ</sup>候ハ、急度詮儀之<sup>(ヲカ)</sup>とけ、御代官所ハ  
其外之手代又ハ国領主於在之ハ其支配<sup>ハ</sup>  
可申談事

一常宿之外他所方昼休泊り共、此方方召寄  
不申、用事無之候ハ、人寄可為無用事

但シ年寄<sup>ニ而</sup>も女之分、男も前髪在之ものハ  
出し申間敷事

一此方方申付候外<sup>ニ而</sup>も家来下々迄一切振廻申間敷候、  
不作法又ハ非儀在之候ハ、早速此方<sup>ハ</sup>可申断候、  
隠置先々方成共及聞候ハ、後日<sup>ニ</sup>令吟味、当分<sup>ニ</sup>  
不申断段其所々可為不念事

(048)  
裏

附り

其家諸道具等此方之者共少シ<sup>ニ而</sup>も損させ

紛失申候ハ、隠シ不置早速此方へ可

申断事

右之趣相背申間鋪者也

一高槻御泊 三御本陣料理 一汁一菜之

御定御上下共木銭

四月八日御夕飯献立

(049) 表

鯛

松茸

平 竹子せん

葛溜り

すりしやうか

小皿 香もの

奈良つけ瓜  
葉付大根

同九日朝御膳御精進

こもふ

しい竹

あけとうふ

平 わらひ

竹の子

ふき

香物

味噌一人前ニ廿匁之積り

あられかまほこ

汁 しいたけ

なこまぐ

食 御老人前三合宛

汁

新こほう

わかめ

干大根

食

(049)  
裏

右之通御上下同事

一八日夜諸方方訴訟人大勢罷出候ニ付、

神保宮内様御本陣喜左衛門方江御三人様御寄会

被遊、夜八ツ半時迄願之趣御聞被遊、御領分方も

水難之願ニ罷出候、尤水難願者摂州・城州・河州

一紙之願候、三ヶ国之内庄屋壺人宛為惣代

御前江被召出委細御尋被遊候、城州ニ而横大路

庄屋、河州ニ而枚方庄屋、摂州ニ而上牧村庄屋、御前へ

罷出委細申上候、先年大坂御番所へ差上候

帳面を以申上候、右之通ニ而夜（更力）□御夜喰被 仰付候

(050)  
表

御夜喰

豆腐こくしやう

茶食

小串物被 仰付候得共入不申候

右之通六人前被 仰付候

一三御本陣共床ニ掛物・硯・文庫かさり置候処、引取  
申様ニ被 仰付候、御朱印台三方・御刀掛計残申候、  
其外不残御引セ被成候、尤御着早々三方ニ  
のし指出候得共御断ニ而御引セ被成候、

惣而新敷もの御用不被成候

(050)  
裏

売上之覚

一白米 何斗 代何匁 但何匁かへ

一味噌 何貫匁 代何匁 但何匁かへ

右之通当所相場を以売上申所実正也、若相場

方下直ニ売、以後御聞被成候ハ、如何様共御詮儀

可被成候、此代銘々慥ニ受取相済申候、仍而如件

延享三年寅四月八日

摂州高槻御宿

稻生左門様御内

年寄

誰印

田口小野右衛門殿

誰印

建部武兵衛殿

(051)  
表

覚

一木錢四百弍拾文

御人数上下三拾四人分御老人<sub>ニ</sub>拾弍文ツ、

一百六拾四文

風呂代・炭代・薪代

右之通慥<sub>ニ</sub>請取申所実正也、勿論此度遣申諸道具

損紛失少シも無御座候、為後日仍<sub>而</sub>如件

延享三年寅四月八日

撰州高槻御宿

誰印

年寄

誰印

宛所右同断

右之通御三人様共証文弍通ツ、被成御取候由

(051)  
裏

一 御三方様共末々迄嚴敷被 仰付候様子ニ而 酒杯者堅

不被給候、稻生様ニ而ハ多葉粉壺斤被成御調候也、御家来中へ

はかれ候わらし迄御小人と申人調候而被渡候、神保様ニ而ハ

浅黄木綿切・紺木綿切レ被成御調候也、其外物ハ不被成

御買候由、惣而先年と違此度ハ末々迄物和らかに候而万端

取計能候

(052)  
表

御巡見様ニ付高槻村掃除等之仕方、郡方方被成御尋候故、

左之通書付差上候

御巡見様御掃除之覚

一 高槻村領御巡見道七九ヶ森

両脇切芝八寸、但シ目竹仕候蒔砂壺寸井路浚同所

石橋両脇八寸ツ、栗丸太入ル橋幅広ケ橋台繕申候

一 下田部口大坂道御目通両脇切立テ草刈捨、蒔砂被 仰付候

一 半田御目通道筋草刈掃除被 仰付候

(052)  
裏 一 京口両脇切立掃除被 仰付候

一 松下野道御目通井路浚草刈掃除被 仰付候

一 上大あみ御目通草刈払掃除被 仰付候

一 御案内之儀高槻領間数無數候故、庄所村ヲ相頼相

働申候

庄屋安左衛門老人勤左之通

一 四月三日未之上刻、御先触枚方々安左衛門名宛送り状<sub>ニ而</sub>

到着、則御郡代中様・御代官中様へ早速写差上、御目

付御当番池田孫太夫様へ郡方様御差函<sub>ニ而</sub>写差上

申候、町方々も紙屋八郎治・本町九左衛門・酒屋仁右衛門・



わら屋五兵衛被参写被帰候、 拝見後高槻村安左衛門

拝見書<sup>ニ</sup>印形仕り市場<sup>江</sup>相渡申候、 市場村<sup>江</sup>受取取置申候

(053)  
表

右御触状請取等之写前<sup>ニ</sup>有之候故乗不申候

一 四月八日夜稻生左門様御本陣<sup>江</sup>御機嫌窺申上候節、

念入罷出候段御上<sup>江</sup>申上候様<sup>ニ</sup>被 仰、 何之御尋も

無御座候

一 神保宮内様御本陣<sup>江</sup>御機嫌御窺申上候節、 御用人

加藤治右衛門様高槻村高被成御尋御書付候、 其上<sup>ニ</sup>而

御相地頭<sup>ハ</sup>無之候哉と被成御尋候<sup>ニ</sup>付、 無御座候と申上候

一 岩瀬吉左衛門様御本陣<sup>江</sup>御機嫌御窺<sup>ニ</sup>罷出候節、

(053)  
裏

御用人野本三太夫様念入罷出候と被 仰、 其上村高御尋并

市場迄村々里数書付差出候様<sup>ニ</sup>被 仰候<sup>ニ</sup>付、 此儀<sup>ハ</sup>

郷中庄屋御地頭御役人中様<sup>方</sup>被 仰付、 当地<sup>ニ</sup>相詰

居申候此庄屋共<sup>江</sup>被 仰付被下候様ニ申上候得ハ、然<sup>者</sup>  
其方<sup>方</sup>申達候様ニ被 仰付候故早々申達候

一 四月八日諸方<sup>方</sup>御窺訴訟人宿之儀相頼申候故、

河内屋六兵衛方<sup>江</sup>人濟遣シ申候、百性<sup>姓</sup>訴訟人ハ郷中庄屋中<sup>江</sup>

参相談致被罷出候様ニ申遣候、先達<sup>而</sup>被 仰付候ゆへ

右之通<sup>ニ</sup>仕候御事

(054)  
表

右之通<sup>ニ</sup>御座候、以上

高槻村庄屋

安左衛門

延享三年寅四月十三日

一 四月八日御泊り之節所々<sup>方</sup>訴訟参候ハ、町人ハ河内や六兵衛

致案内、百性<sup>者</sup><sup>姓</sup>庄屋安左衛門致挨拶、出家ハ円成寺

被致案内候様<sup>ニ</sup>被 仰付候得共、安左衛門儀<sup>者</sup>人馬方

御用<sup>ニ而</sup>中々外之儀相掛り候儀難成旨、御用懸り

御代官中様方被 仰上被下、然<sup>者</sup>郷中<sup>方</sup>被相詰候

庄屋中<sup>へ</sup>案内致させ、願筋之儀御本陣<sup>江</sup>案内之儀

郷中庄屋中被相勤候様<sup>ニ</sup>訴訟人宿之儀ハ河内や六兵衛<sup>へ</sup>

被 仰付被置候間、六兵衛方<sup>へ</sup>人添遣候様<sup>ニ</sup>被 仰付

右之通取計申候

一 訴訟人宿、魚屋町油屋五兵衛・川之町天王寺や利兵衛・

井筒屋伊兵衛・天満屋四郎兵衛・萬屋与兵衛<sup>ニ而</sup>相勤候由

諸方<sup>方</sup>夥敷訴訟人参候由

一 願之筋何事<sup>ニ</sup>よらす是迄京大坂御番所<sup>江</sup>罷出

相願候儀<sup>者</sup>被成御取上ケ、未京大坂御番所<sup>へ</sup>不罷出願<sup>者</sup>

御取上ケ無之候由

(055)  
表

(白紙)

(054)  
裏

(055)  
裏

前嶋村

御目通りハ御出無之御堅メ計ニ候

山中弥三郎

東天川村

同

乾 官兵衛

庄所村

同

加藤治郎兵衛

芥川筋雨天故川越人足用意五拾人道場ニ集り、唐崎村

より式拾人芥川村ヲ廿人芝生村ヲ拾人、天道川用意

津ノ江村・東五百住村へ御手合、然共兩川共入不申候

同

東五百住村

高屋新蔵

一村々御案内之儀庄屋中装束羽織股引、年寄中同前

(056)  
表

宇治三り

先年方御巡見場泊休付

但上之段 泊り

京都

下之段 休

木津へ五り

宇治

上林門太郎支配

草津へ三り

木津

小堀仁右衛門支配

淀<sup>〓</sup>四り半

草内村

松平丹後守領

嵯峨<sup>〓</sup>四り半

淀

同城下

龜山<sup>〓</sup>四り半

嵯峨

大学寺御門跡境内

丹波国

(056)

裏

園部<sup>〓</sup>四り八丁

龜山

青木因幡守城下

福住<sup>〓</sup>四り半

園部

小堀信濃守領分

宮田<sup>〓</sup>四り半

福住村

松平紀伊守領

小多理<sup>〓</sup>三り

柏原

織田近江守領

小多理村

川勝形部領

千原<sup>〓</sup>三り余

上大久保<sup>〓</sup>三り

生野村

九畏大隅守領

紅村<sup>〓</sup>三り

上大久保村

小堀仁右衛門支配

広野<sup>〓</sup>三り

紅村

柴田源之丞領

宮田村

松平紀伊守領

柏原<sup>〓</sup>三り余

(刑カ)

(鬼カ)

(出カ)

(山カ)

(覺カ)

福知山<sup>〓</sup>三

綾部

(057) 表  
河守<sup>〓</sup>四半

福知山

(鬼カ)  
九畏大隅守領

朽木民部少輔城下

丹後

広野村 小出信濃守領 綾部<sup>〓</sup>二半

田辺<sup>〓</sup>四

有路村

由良<sup>〓</sup>四

田辺

牧野因幡守領

牧野因幡守城下

河守町 奥平大膳大夫領

有路<sup>〓</sup>  
二余

岩瀧<sup>〓</sup>三丁八

宮津

奥平大膳大夫城下

由良村 牧野因幡守領 宮津<sup>〓</sup>四

海士<sup>〓</sup>四

峯山町

(057) 裏

益留<sup>〓</sup>二

海士村

(極カ)  
京都主膳領

奥平大膳大夫領

岩瀧村 奥平大膳大夫領

峯山<sup>〓</sup>  
三十八丁

益留村 奥平大膳大夫領

四辻<sup>〓</sup>  
四余

佐々木村四り半  
四辻村  
奥平大膳大夫領

小谷村三り  
丹波国

佐々木村  
保科主膳領分

但馬国

小谷村  
仙石越前守領  
出石へ  
四り十八丁

豊岡三り  
出石

仙石越前守領

(058)  
表

坊岡三り余  
豊岡

京極加賀守領

香住三り十六丁  
坊岡村

仙石越前守領

浜坂四り十三丁  
香住村

同断

湯村四り  
浜坂

京極加賀守領

村岡四り半  
湯村

同断

関宮四り  
村岡

山石中務領  
(名カ)

養父市場三り十八丁  
関宮村

清野与右衛門支配

竹田<sup>〓</sup>四り

(垣カ) 養父市場

仙石越前守領

森塩<sup>〓</sup>四り

竹田町

清野与右衛門支配

(058) 裏(粟カ)

栗賀<sup>〓</sup>三り

播磨国

(垣カ) 森塩村

清野与右衛門支配

野畑<sup>〓</sup>二り半

栗賀村

松平久之助領

山崎<sup>〓</sup>三り半

林田

野畑村 榊原式部大輔領 林田<sup>〓</sup>三り

原村<sup>〓</sup>三り

龍野

山崎 (多カ) 本田紀伊守領 龍野<sup>〓</sup>三り半

室<sup>〓</sup>三り

狩谷

原 脇坂淡路守領 狩谷<sup>〓</sup>二り半

(059) 表

姫路<sup>〓</sup>四り

鷗村

脇坂淡路守領

室 榊原式部太輔領 鷗村<sup>〓</sup>三り



法花山<sup>四</sup> 姫路

榊原式部太輔城下

森田<sup>四</sup>

浄土寺

一柳対馬守領

法花山<sup>境内</sup> 浄土寺<sup>二</sup>半

高和<sup>三</sup>

淡河町

松平左兵衛督領

森村 石原新十郎支配 淡河<sup>三</sup>

塩屋<sup>式</sup>

明石

松平左兵衛督領

高和村 松平左兵衛督領 明石<sup>三</sup>

(059) 裏

摂津国

住吉<sup>三</sup>

兵庫

松平遠江守領

塩屋村 松平左兵衛督領 兵庫<sup>三</sup>

川面<sup>式</sup>半

西宮

松平遠江守領

住吉村 松平遠江守領 西宮<sup>二</sup>

川面村 小堀仁右衛門支配 湯山<sup>三</sup>

三

三田<sup>〱</sup>三<sup>〱</sup>り十八<sup>〱</sup>丁  
湯山

小堀仁右衛門支配

広根<sup>〱</sup>  
二<sup>〱</sup>り廿八<sup>〱</sup>丁

三田

九畏丹<sup>(鬼カ)</sup>後守城下

広根村

鈴木九太夫支配

池田<sup>〱</sup>

三<sup>〱</sup>り十六<sup>〱</sup>丁

(060)  
表

西難波<sup>〱</sup>  
二<sup>〱</sup>り三十<sup>〱</sup>丁

池田村

竹田喜左衛門支配

西難波村

松平遠江守領

大坂<sup>〱</sup>二<sup>〱</sup>り

半<sup>10</sup>

市場<sup>〱</sup>三<sup>〱</sup>り

大坂

市場村

松平丹波守領

高槻<sup>〱</sup>三<sup>〱</sup>り

枚方<sup>〱</sup>三<sup>〱</sup>り

高槻

永井文九郎城下

河内国

枚方村

高谷太兵衛支配

北条<sup>〱</sup>

三<sup>〱</sup>り

北条村

久貝因幡守領

堺<sup>へ</sup>四り半

(060)  
裏

誉田村

本田遠江守領

大竹村

松平丹波守領

誉田<sup>へ</sup>

三り半

貝塚<sup>へ</sup>三り半

堺

和泉国

信太<sup>へ</sup>三り半

貝塚

朴伴境内

信太

辻弥五左衛門支配

寺元<sup>へ</sup>二り

天野山

河内国

境内

寺元村本田伊与守領水分<sup>へ</sup>二り三十四丁

(予)

森屋<sup>へ</sup>

三り二丁

水分村

石川遠江守領

森屋村

松平丹波守領

山田<sup>へ</sup>二り七丁

(061)  
表

新庄<sup>へ</sup>二り十七丁

山田村

松平丹波守領

大和国

田原本<sup>〓</sup>二り半

土佐町

植村右衛門佐領

新庄村坪井弥五左衛門支配土佐町<sup>〓</sup>三り

奈良<sup>〓</sup>四り

龍田

古郡文右衛門支配

田原本村 平野右衛門領 龍田<sup>〓</sup>四り半

柳本<sup>〓</sup>二り半

奈良

柳本村

織田播磨守領

(061)  
裏

西瀬<sup>(初カ)</sup>  
<sup>〓</sup>三り

<sup>(初カ)</sup>

西瀬村

辻弥五左衛門支配 宇田<sup>〓</sup>三り

針道<sup>〓</sup>三り

宇田町

平岡彦兵衛支配

針道村 藤堂和泉守領 上市<sup>〓</sup>二り半

六田<sup>〓</sup>三り半

上市村

辻弥五左衛門支配

六田村 辻弥五左衛門支配 五条<sup>〓</sup>三り半

橋本<sup>〓</sup>三り半

五条村

辻弥五左衛門支配

紀伊国

高野<sup>〓</sup>四り

橋本

紀州領

高野 天野<sup>〓</sup>三里半

北脇<sup>〓</sup>一り半

天野村

高野領

北脇村 高野領 粉川<sup>〓</sup>三り三十丁

岩橋<sup>〓</sup>三り

粉川村

岩橋村 紀三井寺<sup>〓</sup>三り三十丁

橋本<sup>〓</sup>二り十二丁

紀三井寺

橋本村 湯浅<sup>〓</sup>三り十三丁

原谷<sup>〓</sup>三り三十三丁

湯浅村

原谷村 小松原<sup>〓</sup>一り廿六丁

印南<sup>〓</sup>三り

小松原村

印南浦 南都<sup>〓</sup>三り  
(部カ)

(062)  
裏

(062)  
表

田辺<sup>二</sup>り (部カ)  
南都

芝村<sup>三</sup>り四丁  
中三栖村

(湯カ)  
道場川<sup>二</sup>り廿九丁  
近露村

日足<sup>五</sup>り  
本宮

(063)  
表  
宇久井<sup>二</sup>り十四丁  
新宮

(阿カ)  
河田和<sup>二</sup>り十七丁  
新宮

新鹿村<sup>一</sup>り十七丁  
木本浦

田辺町 中三栖<sup>一</sup>十七丁

芝村 近露<sup>三</sup>里

(湯カ)  
道場川村 本宮<sup>三</sup>り

日足村 新宮<sup>四</sup>り八丁

宇久井浦 那知山<sup>一</sup>貳り廿三丁

(阿カ)  
河田和村 木本浦<sup>一</sup>貳り半十一丁

『徳川実紀』には隠岐の国が入っている。

使番 小幡又十郎景利  
小姓組 板橋民部永盛  
書院番 伊奈兵庫忠衝

(『徳川実紀』より)  
以下同様

三木里へ一り廿四丁

曾根村

新鹿村 曾根村へ忒り半十六丁

三浦へ二り老丁余

舟津

三木里 舟津へ四り廿忒丁

(063)  
裏

長嶋浦

三浦 長嶋へ老り十九丁

一延享三寅年諸国御巡見様国割

因幡 出雲 伯耆 石見 長門 周防 安芸

備後 備前 美作 備中

御使番 戸川五左衛門

平番

天野伝五郎  
諏訪右近

|          |         |    |               |    |               |               |               |             |              |    |
|----------|---------|----|---------------|----|---------------|---------------|---------------|-------------|--------------|----|
| 使番<br>教平 | 大久保江七兵衛 | 義珍 | 書院番<br>瀬名伝右衛門 | 尹良 | 小姓組<br>中野勘右衛門 | 使番<br>島田庄五郎和氏 | 書院番<br>諏訪右近盛恭 | 房<br>天野伝五郎富 | 由<br>戸川五左衛門村 | 使番 |
|----------|---------|----|---------------|----|---------------|---------------|---------------|-------------|--------------|----|

|  |        |    |    |    |       |       |    |    |        |         |
|--|--------|----|----|----|-------|-------|----|----|--------|---------|
|  | (064)裏 |    |    |    |       |       |    |    | (064)表 |         |
|  | 佐渡     | 近江 | 若狭 | 越前 | 越後    | 能登    | 越中 | 加賀 | 伊豆     | 相模      |
|  |        |    |    | 平番 | 山岡五郎作 | 筑紫卯兵衛 |    |    | 武蔵     | 上野      |
|  |        |    |    |    |       |       |    |    | 安房     | 上総      |
|  |        |    |    |    |       |       |    |    | 常陸     |         |
|  |        |    |    |    |       |       |    |    | 下総     | 下野      |
|  |        |    |    |    |       |       |    |    | 御使番    | 嶋田庄五郎   |
|  |        |    |    |    |       |       |    |    | 平番     | 中野市右衛門  |
|  |        |    |    |    |       |       |    |    | (名力)   | 瀬石伝右衛門  |
|  |        |    |    |    |       |       |    |    |        | 駿河      |
|  |        |    |    |    |       |       |    |    |        | 遠江      |
|  |        |    |    |    |       |       |    |    |        | 三河      |
|  |        |    |    |    |       |       |    |    |        | 尾張      |
|  |        |    |    |    |       |       |    |    |        | 伊賀      |
|  |        |    |    |    |       |       |    |    |        | 伊勢      |
|  |        |    |    |    |       |       |    |    |        | 志摩      |
|  |        |    |    |    |       |       |    |    |        | 甲斐      |
|  |        |    |    |    |       |       |    |    |        | 信濃      |
|  |        |    |    |    |       |       |    |    |        | 飛騨      |
|  |        |    |    |    |       |       |    |    |        | 美濃      |
|  |        |    |    |    |       |       |    |    |        | 御使番     |
|  |        |    |    |    |       |       |    |    |        | 大久保江七兵衛 |
|  |        |    |    |    |       |       |    |    |        | 御使番     |
|  |        |    |    |    |       |       |    |    |        | 山口勘兵衛   |



|     |       |    |  |     |        |
|-----|-------|----|--|-----|--------|
| 小姓組 | 山岡五郎作 | 景之 |  | 使番  | 富永靱負泰代 |
| 書院番 | 筑紫宇兵衛 | 通門 |  | 小姓組 | 酒依清十郎  |
|     |       |    |  | 信道  |        |
|     |       |    |  | 書院番 | 神谷左内清  |
|     |       |    |  | 俊   |        |
|     |       |    |  | 使番  | 德永平兵衛昌 |
|     |       |    |  | 寬   |        |
|     |       |    |  | 小姓組 | 夏目藤右衛  |
|     |       |    |  | 門保信 |        |
|     |       |    |  | 書院番 | 小笠原内匠  |
|     |       |    |  | 信甫  |        |
|     |       |    |  | 使番  | 山口勘兵衛直 |
|     |       |    |  | 意   |        |

(065)  
表

|      |     |       |    |                       |    |    |
|------|-----|-------|----|-----------------------|----|----|
| 淡路   | 讚岐  | 阿波    | 土佐 | 伊与 <small>(予)</small> | 豊前 | 豊後 |
| 御使番  |     | 小幡又十郎 |    |                       |    |    |
| 平番   |     | 板橋民部  |    |                       |    |    |
| 伊奈兵庫 |     |       |    |                       |    |    |
| 筑前   | 筑後  | 肥後    | 日向 | 大隅                    | 薩摩 | 壹岐 |
| 对馬   | 肥前  | 并五嶋   |    |                       |    |    |
| 御使番  |     | 富永靱負  |    |                       |    |    |
| 平番   |     | 酒依清十郎 |    |                       |    |    |
| 神谷左門 |     |       |    |                       |    |    |
| 陸奥   | 并松前 | 出羽    |    |                       |    |    |
| 御使番  |     | 德永平兵衛 |    |                       |    |    |

小姓組 神保新五左  
衛門長勝  
書院番 細井金五郎  
勝尚

(065)  
裏

平番

夏目藤右衛門  
小笠原内近(匠力)

山城 大和 河内 和泉 摂津 紀井(伊) 播磨

丹波 但馬 丹後

御使番 稻生左門

平番

神保宮内  
岩瀬吉左衛門

一御巡見御歩行御目附因

加藤与市郎 伴 勘七 窪田忠蔵

山田幸右衛門 小知藤右衛門 鈴木市十郎

大石忠右衛門 菰田仁右衛門

木室庄左衛門 小尾庄次郎

(066)  
表

(白紙)

後の巡見時に、対応資  
料として提出した控  
えと思われる

(066)  
裏

(白紙)

(067)  
表

(白紙)

┌ (貼紙)

覚

一延享三年宝曆十年 御巡見之砌

諸事覚書帳面二冊奉差上候、御覧相

済候ハ、御差戻し可被 成下候、已上

戌二月五日

高槻村庄屋

近藤銅蔵

(067)  
裏

(白紙)

(外題)

御巡見様人馬諸色入用控  
延享三年

(001)  
表  
延享三年

御巡見様人馬諸色入用

窺上ル 控

(001)  
裏  
(白紙)

(002)  
表  
一御乗物三挺 此六尺 拾八人

寅年ハ五領組三ヶ村方出シ申候、今年も  
右之通ニ相對仕度奉存候

一同 拾八人

右ハ翌日送り人足、此儀ハ人柄見立申

雇人足ニ可仕哉、御窺奉申上候

一 駕籠五拾挺 但ふとん雨戸油共

(002)  
裏

寅年ハ富田・茨木ニ而損料かりニ仕候

此度之儀御窺申上候、但両日

御乗物六尺

一 木綿かんはん 拾八人分

但シ 帯 三尺手ぬくひ きやはん共

右ハ両日共 御上方御出シ被下候

一 木綿かんはん 八拾弐

寅年ハ京都<sup>ニ</sup>而損料かり<sup>ニ</sup>江戸屋

(003)表  
久五郎仕候、此度之儀御窺申上候

一 乗掛馬紙羽 式拾

寅年ハ当町紙羽屋<sup>ニ</sup>而損料かり<sup>ニ</sup>仕候、此度之

儀御窺申上候

一 琉球百枚

寅年ハ相調跡<sup>ニ</sup>而売払申候、此度之

儀御窺申上候

(003)裏  
一 馬五拾疋

寅年前日ハ枚方<sup>へ</sup>相對仕、当町迄

直通り<sup>ニ</sup>仕候、此度も賃錢を遣シ直通り<sup>ニ</sup>

枚方<sup>へ</sup>相對可仕と奉存候、但シ式人宛之

付人足ハ此方<sup>方</sup>付申候

一馬五拾疋

寅年ハ御領分之馬<sub>ニ</sub>富田村・茨木村馬相加<sup>ハ</sup>

相調候得共、唯今<sub>ニ</sub>而<sub>ニ</sub>ハ富田・茨木<sub>ニ</sub>馬無御座、

御領分<sub>ニ</sub>も馬減少仕、漸式拾五疋程

御座候、残り馬式拾五疋かり馬可仕候、此駄賃

銀之積りを以、御領分之馬<sub>江</sub>も駄賃錢相渡

可申と奉存候、此儀御窺申上候

一雇馬并五ヶ庄馬

右馬宿之儀ハ、当町・上田部村之内かり入

置申度奉存候

一両日人足之儀ハ 御上方御割付奉願候、

(004)  
裏

尤前日<sub>ニ</sub>ハ東方村々<sub>江</sub>被 仰付、翌日<sub>者</sub>

御当町方西方村々<sub>江</sub>被 仰付被下候様<sub>ニ</sub>

(004)  
表

奉願候、肝煎之儀村々年寄中之内

才覚成仁、人足五人<sup>ニ</sup>壺人宛積り被 仰付

可被下候

右之通<sup>ニ</sup>御座候、御了簡之上被為 仰付

可被下候、以上

(005)  
表

寅二月

高槻村庄屋

安左衛門

土橋村庄屋

理右衛門

芥川村庄屋

嘉兵衛

山中弥三郎様

乾 官兵衛様

唐崎村庄屋

幸助

伊藤朴助様

(005)  
裏

高屋新蔵様



尾崎源蔵様

小沢甚蔵様

## あとがき

私たち古文書グループが発足したのは、高槻市立しろあと歴史館が広く市民に文化財を普及しようとして、文化財スタッフ制度をはじめられた平成十六年です。それより集まった古文書好きの面々は、高槻の近世古文書を読みたいと、館学芸員や専門員の力を得ながら、班に分かれ集団学習をし、一語一語読み解いています。

平成二十一年には、高槻市文化財スタッフの会はNPO法人となりました。私たちは、これまでの学習成果を史料集として発刊し、江戸期の先人達の声を今に届けようと思いました。そして、高槻の歴史遺産や文化財への御礼とすると共に、高槻市文化財スタッフの会のボランティア活動への一層の励みともしたいと思えます。

本書が高槻市文化財スタッフの会のもとに、みんな素人の古文書グループ全員の成果として、高槻市立しろあと歴史館及び大阪府立中之島図書館の御協力をもって、史料集第一号が発行できましたことを、ここに深く感謝いたします。

これからも高槻の歴史と文化財が普く理解され、市民社会の向上の一助にもなれば幸いです。

平成二十四年三月

NPO法人高槻市文化財スタッフの会 古文書グループ

浅原元始

井嶋勉

一ノ本成隆

大上千恵子

大久保洋子

岡本照子

落合明美  
小野直枝  
川向聡子  
木村輝代  
桑原千恵子  
越田昌夫  
後藤秀男  
三田ひさ子  
下郡耕太郎  
杉岡治  
砂川民子  
多賀良一  
豊谷和美  
田村猛  
塚本紀雄  
寺尾國廣  
戸井詰哲郎  
富川美知子  
中川京子  
西川行子  
西口徹哉  
西崎理恵  
橋上嘉之

長谷川豊一

林昭幸

福島幸彦

藤田都根子

堀和美

毛利元久

安岡由美子

吉田由巳

渡邊仁美

和田美子

(平成二十二年度)



摂津国高槻村古記録一

編者・発行者

特定非営利活動法人

高槻市文化財スタッフの会

古文書グループ

平成二十四年三月三十一日初版発行

平成二十四年八月三十一日再版発行